

# 沼津高専だより

第110号

平成29年3月8日発行

独立行政法人国立高等専門学校機構

沼津工業高等専門学校

〒410-8501 沼津市大岡3600

TEL 055-921-2700 URL <http://www.numazu-ct.ac.jp/>



高専祭テーマ「Departure」の人文字



高専祭



学生総会



高校野球静岡大会選手宣誓



東海地区高専大会壮行会



寮生リーダー研修

目次

☆沼津工業高等専門学校 目的、教育目標、養成すべき人材像、学生受入方針

☆校長・副校長・校長補佐から (平成28年度総評)

早期に自己の専門の確立を！ ..... 学校長 藤本 晶 ..... 4

学生が輝く学校づくりを目指して ..... 副校長 (教務主事) 小林 隆志 ..... 5

平成28年度を振り返って ..... 校長補佐 (学生主事) 芳野 恭士 ..... 5

平成28年度の学生寮を振り返って ..... 校長補佐 (寮務主事) 小林 美学 ..... 6

平成28年度を振り返って ..... 校長補佐 (専攻科長) 高野 明夫 ..... 6

☆各学科から (平成28年度総評)

平成28年度を振り返って ..... 機械工学科長 村松 久巳 ..... 7

平成28年度を振り返って ..... 電気電子工学科長 野毛 悟 ..... 8

海外で活躍する卒業生 ..... 電子制御工学科長 遠山 和之 ..... 8

平成28年度を振り返って ..... 制御情報工学科長 藤尾三紀夫 ..... 9

平成28年度を振り返って ..... 物質工学科長 後藤 孝信 ..... 9

マネジメントと地道な努力 ..... 教養科長 佐藤 誠 ..... 10

☆部活動

第51回「全国高等専門学校体育大会」成績一覧 ..... 11

第54回「東海地区国立高等専門学校体育大会」成績一覧 ..... 11

第3回「全国高等専門学校弓道大会東海・北陸地区予選」入賞者 ..... 11

全国大会出場報告

有終の美 ..... 卓球部 本多 由佳 ..... 12

リレーで全国！ ..... 水泳部 木下 真優 ..... 12

全国大会を振り返って ..... テニス部 伊藤 優月 ..... 13

陸上競技のおもしろさ ..... 陸上部 藤川 泰佑 ..... 13

全国大会出場を経て ..... 弓道部 秋山 亜久里 ..... 14

感謝 ..... サッカー部 原川 翔太 ..... 14

☆行事・コンテスト・その他イベント

●体育祭

トラブルバスターというリーダー性 ..... 体育祭実行委員長 増山 広人 ..... 15

●高専祭

第51回高専祭 ～ Departure ～ ..... 高専祭実行委員長 杉山 聡 ..... 15

●3年生合宿研修

平成28年度 3年生合宿研修 ..... 3年学年代表・合宿研修担当 長縄 一智 ..... 16

●ロボットコンテスト2016

14年ぶりの決勝進出 ～ロボコン部の軌跡～ ..... ロボコン部顧問 青木 悠祐 ..... 17

No Creative, No Change ..... ロボコン部部长 関 優志 ..... 17

●第27回全国高専プロコン大会

伝統を築くー平成28年度全国高専プロコンを引率してー

..... プロコン同好会顧問 鈴木 康人 ..... 18

人間vsコンピュータ ..... プロコン同好会長 佐野 優汰 ..... 19

●東海北陸地区高専英語スピーチコンテスト

完成へのコネクション ..... 電気電子工学科2年 岩倉 一真 ..... 19

On the Other Side ..... 物質工学科4年 朝比奈 佑磨 ..... 20

●第55回全国高等学校生徒英作文コンテスト

学生であるという特権 ..... 機械工学科3年 松本 浩輝 ..... 20

●第11回読書感想文コンクール ..... 21

充実した読書生活にむけてー読書感想文コンクール報告ー

..... 国語担当 小村 宏史 ..... 22

●知財教育

TKYで君の「アイデア」を地域の「財産」にしよう！

..... 電気電子工学科 大津 孝佳 ..... 22

☆退職教職員から

あせらずに待つ ..... 教養科 勝山 智男 ..... 24

『人柄の良い～』を育てる教育寮 ..... 寮監 笹原 正和 ..... 24

定年を迎えて ..... 技術長 鈴木 猛 ..... 25

☆卒業生・修了生から

高専で過ごした5年 ..... 機械工学科5年 鈴木 康男 ..... 25

最後の1年 ..... 電気電子工学科5年 庄司 和樹 ..... 26

父からの言葉 ..... 電子制御工学科5年 水溜 雄作 ..... 26

最後の学生生活を終えて ..... 総合システム工学専攻2年 (医療福祉機器開発工学コース) 町田 隼大 ..... 27

☆私の高専時代

分かった積り ..... 電気工学科30期 大澤 友克 ..... 27

☆学生の研究活動 (2016. 4. 1～2017. 3. 31) ..... 28

☆平成28年度卒業生・修了生進路先一覧 ..... 33

☆教育後援会から

「考え方」こそが人生を決め、運命を変える ..... 教育後援会会長 河合 隆徳 ..... 36

☆同窓会から

同窓会へようこそ (同窓会50周年) ..... 同窓会会長 木戸 実 ..... 36

☆お知らせ

平成29年度語学研修について ..... 37

平成29年度前期分授業料の免除および徴収猶予について ..... 37

沼津高専意見箱について ..... 38

平成29年度 (平成29年4月～平成30年3月) 行事予定表 ..... 38

# 沼津工業高等専門学校の目的、教育目標、 養成すべき人材像、学生受入方針

## 教育理念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

## 目 的

本高専は、豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業の進展に寄与することを目的とする。

## 養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力のある実践的技術者

## 学生受入方針

- 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身に付けている人
- 自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
- 科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
- 他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

## 本 科

### 教育方針

1. 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
2. コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3. 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
4. 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

### 学習・教育目標

本高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする。

1. 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2. 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
3. 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4. 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5. 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

## 専 攻 科

### 教育方針

創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するため、融合複合・新領域分野をテーマとする専攻科

実験の実施、長期インターンシップによるエンジニアリングデザインの実務体験、専攻科研究のマンツーマン指導などを教育方針としており、これらの教育方針の下に以下の学習・教育目標を達成する。

### 学習・教育目標

- A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力
- (A-1) 「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる。
- (A-2) 「工学倫理」および「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる。
- B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢
- (B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる。
- C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力
- (C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学、材料工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる。
- (C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる。
- (C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる。
- D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力
- (D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる。
- (D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる。
- E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢
- (E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる。
- (E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる。

## 校長・副校長・校長補佐から (平成28年度総評)



### 早期に自己の専門の 確立を！

学 校 長  
藤 本 晶

沼津高専に赴任して2年が過ぎました。

この間、色々な視点から沼津高専を眺めるように心がけてきました。私の赴任以前にも、より良い高専を目指して、既に色々な施策が行われています。その結果、良い点、他高専に誇れる優れた点が多くあります。しかし中には、改善すべき幾つかの点も目につきました。この2年間は、これらを踏まえて今後沼津高専はどのような方向に進んで行くべきかを考えてきました。

優れた、特色ある点では、高学年から専攻科に続く学際科目や、地域に根ざした分野に特化した専攻科のコース設定、それに基づくカリキュラム設定等が挙げられます。中でも医療機器開発工学コースの設置は、静岡県の実用プロジェクトとも整合し、他高専には無い特色になっています。これからは、これらの特色をどのように改善し、伸ばして行くかが課題になってきます。

学際科目および専攻科では、自己の専門領域だけでなく、周辺領域や他分野の事柄も学ぶこととなります。特定の専門だけでなく、他分野にまたがる幅広い分野で高い能力、知見を持つことは、社会から特に必要とされる能力です。その意味で高学年での学際科目の設定、そしてそれに続く専攻科のコース設定は社会の要請に応えるものだと考えています。

しかし複数の専門を学ぶ際には、自己の専門がある程度確立していなければ、大きな効果は期待できません。確固とした自己の専門を持った上で、その知見や考え方を他の専門分野と比較し、関連づけることで、各専門の特徴が理解できるのです。自己の専門が不明瞭なまま、複数の専門を学んでも、理解が深まらないばかりか、どれが本来の専門なのか判らなくなるかも知れません。

確固とした自己の専門を持って、この分野では自分は専門家だと思えることは、仕事を進める上で大きな自信になります。そしてその専門に加えて周辺分野の知見や知識を併せ持つことで、仕事の幅が大きく広がるのです。中には本来の専門と同程度に、他の専門に精通している人もいます。このような複数の専門を持つ人も、最初は一つの専門からスタートしているのです。

高等専門学校は5年間という短期間で技術者を養成する役割を担っています。一つの専門を確立するだけでも大変です。沼津高専では『学際科目』を3年次より取り入れ、主となる専門に加えて、周辺領域にまたがった科

目を学び、4年から5年、そして専攻科へと続けていきます。高学年で複数の専門分野を学ぶためには、早い段階で自己の専門をある程度確立させておく必要があります。

自己の専門を早く確立させるには、低学年での専門教育を充実させる必要があります。1年生においても例外ではありません。1年次の専門科目を増やして、早期の専門教育を充実できる環境を作るために、来年度より1年次の混合学級を元の専門学科別の学級に戻すことになりました。これにより、専門学科の判断で専門科目を増やすことが可能となります。

専門科目にできるだけ早く、そして多く触れることは、専門の面白さ、魅力を実感して貰うのに、とても有効だと考えます。とりわけ学科を選んで入学している沼津高専の学生にとっては、なおさらだと思います。入学後、できるだけ早い時期に選んだ専門の面白さ、魅力を感じて、卒業まで手を抜くことなく勉学に邁進して欲しいと願っています。

また選んだ専門学科への帰属意識や学科の一体感を作るのにも、学科別のクラス編成は効果があるでしょう。新入生と高学年との交流の機会を多くすることも有効だと考えます。高専祭や体育大会で、1年から5年までの学科チームを作ることも可能になります。さらに高学年の学生や専門の教員が1年のクラスの学習等に応援することも、し易くなるでしょう。

しかし学科をまたがった混合学級にも多くの利点があります。とかく狭くなりがちの高専生の交流関係を拡げることや、異なった専門を目指す人との人脈を作ることは特に有効でしょう。これらの良さをどのように残して行くか、また寮生活や課外活動等の他の方策で補って行けるか、色々なアイデアを出し合って、より良い方向に向かって行きたいと考えています。

高等専門学校は5年間の教育で、社会で活躍できる専門能力を持った技術者を養成することを目的とする旨、法律で定められています。国民の血税で運営されている国立高専では、この定められた目的に沿って運営する必要があります。定められた目的を逸脱することなく、その上で沼津高専の良さ、強み、特色を活かし、伸ばせる運営を続けて行きたいと考えています。





## 学生が輝く学校づくりを 目指して

副校長（教務主事）  
小林 隆 志

保護者の皆さまには、沼津高専の教育にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。今年度は教育後援会支部会が発足し、沼津、三島、富士、静岡、浜松の各支部会で支部会が開催されました。保護者の会員の皆様からは就職・進学、インターンシップ、学習支援、行事予定などに関するご意見やご要望がありました。いただいたご意見とご要望に耳を傾けて、改善を図ってまいりたいと考えています。

この3月に卒業を迎えられた皆さん、おめでとうございます。皆さんは本校で学際教育が始まってから初めての卒業生です。専門分野の幅を広げる学際科目の授業や、4年生の「社会と工学」で実際に企業が抱える問題を解決するという実践的な授業を通して、自身が専門とする分野の能力とともに他分野にも柔軟に対応できる技術者としての能力も身に付けています。近年の急速な科学技術とグローバル化の進展の中で、在学中に身に付けた知識の上に、さらに学び続ける姿勢も長い技術者人生において重要です。次の時代を支える技術者として

活躍されることを願っています。

本校機械工学科1期生で、若くして会社を興し、自動車エンジンのチューニングパーツのトップメーカーにまで成長させたHKS長谷川社長が昨年11月に急逝されました。卒業生として本校にご理解をいただいていた方ですので、残念でなりません。卒業・修了する皆さんも情熱をもってエンジン開発に取り組んだ先輩の精神を引き継いでくれることを願っています。

在校生の皆さんにとっての大きな不安の一つは学業の問題だと思います。学校では社会が求める水準の教育プログラムを実施することは大前提ですが、藤本校長の指示の下、教務上の規則が必要以上に厳し過ぎないかを他高専の情報も得ながら点検をしています。学生の皆さんがゆとりをもって主体的に勉学に励むような技術者教育を目指しています。学習支援のために昨年スタートした学習サポートセンターは2年目を迎え、今年度の利用者数は延べ約700名となり定着してきました。是非とも多くの学生の皆さんに利用していただきたいと考えています。学習サポートセンターの初代センター長勝山先生はこの3月で定年退職されます。これまでのご尽力に心より感謝いたします。

これからも教育・研究・社会貢献に邁進し、学生の皆さんが輝く学校づくりを進めてまいりたいと考えています。引き続き保護者の皆さまのご理解とご支援をお願いいたします。



## 平成28年度を振り返って

校長補佐（学生主事）  
芳野 恭 士

今年度も、学生たちの生活についての危機管理として、交通事故やクラブ活動等での事故、非違行為、メンタル面でのトラブルなどの学生を取り巻くリスク等への対応を行ってきました。自転車や原付バイクでの接触あるいは転倒事故は10件ほど、クラブ活動での怪我は5件ほどでした。交通安全については、学生の自覚を促すよう繰り返し注意喚起をしていきたいと思っております。非違行為としては、残念ながら定期試験でのカンニング、ネットの不適切な使用、研修旅行での飲酒、交通法規の違反などがありました。事件を起こした学生は、いずれも後には深く反省するのですが、年度当初にもお話ししたように、他者の起こした事件を他人事と思わずに「自分だったらどうだろうか」と考えてみて、是非事件を起こす前に自分を戒めてほしいと思っております。学生諸君が目指す技術者には、強い倫理観が求められます。ところで、学生生活支援室が行っているカウンセリングには毎月10～15件ほどの学生相談があります。専門のカウンセラーや精

神科医のカウンセリングを受けることができますので、是非、利用してほしいと思っております。学生だけでなく、保護者の方々も担任教員等を通して申し込みをしていただければ、ご利用できます。

さて、年度当初に学生諸君には様々なことにチャレンジしてほしいと話しました。今年度もクラブ活動や様々なコンテスト、イベントなどに多くの学生が参加し、それぞれ素晴らしい成果をあげました。学生たちの活躍の詳細はここでは割愛させていただきますが、その都度本校のホームページに掲載していますので、保護者の皆さんには是非ご覧になっていただきたいと思っております。特にチームでの活動は、他人とのコミュニケーションや思いやりを考えるよい機会になります。本校が進めています国際交流を含め、今後とも様々な活動への学生諸君の積極的な取り組みを期待しています。

最後に、この3月に卒業、修了する学生たちの進路についてですが、就職、進学ともに例年同様11月初めの段階でほぼ決定しています。社会からの本校卒業、修了生への熱い期待は、これまで卒業、修了していった方々の努力によるものですが、是非、このよい伝統を今年度卒業、修了する学生たちも引き継いでほしいものと思っております。



## 平成28年度の 学生寮を振り返って

校長補佐（寮務主事）  
小林 美学

4月に入寮して、不安と緊張でいっぱいだった一年生も、今ではすっかり寮生活に慣れ、毎日の生活を満喫しています。何かと不自由な思いをさせている寮生活ですが、同学年、異学年の仲間たちとの共同生活の中で、問題があってもそれを解決しながら成長していく様には毎年驚かされます。学生達もきっと、この一年間の自分の変化について手応えを感じていることと思います。中には寮生活にいろいろ思っている学生もいるかもしれませんが、この寮で過ごした毎日は、間違いなく自分の歴史の一つです。この経験を大事にしてほしいと思います。

さて3つの階だけでしたが、今年度は一年生の相方変更を試行として行いました。当初は一年生全員を対象に考えていましたが、寮では部屋番号で学生を管理することが多く、その番号が変わることに不安の声があったため、階を3つに限定して実施することになりました。一年生に実施したアンケートはまだ集計中ですが、相方変更を実施した階では「新しい相方を通じて友達が広がっ

た」「元の相方ともよりよい距離感で過ごせている」などの肯定的な意見が、否定的な意見より多いようです。違う相方と新たな関係を築くことで、人間関係についてより広く学んでほしいと思い実施したことです。当初心配していた混乱もなく実施できたので、来年度は全一年生を対象に実施できるように考えたいと思います。また寮生会の庶務の協力を得て試行として実施したメンター制度も、アンケート結果を見ると良好のようです。こちらもこれまであった縦と横とはまた違った人間関係をこの寮にもたすものとして、寮生会と相談しながら継続したいと考えています。

その他にも今年度は補食室のIHクッキングヒーターの使用時間の延長、一年生の休日前消灯時間の延長も試行として実施しました。特にIHクッキングヒーターについては、寮生会の風紀が知恵を絞ってくれました。いずれの試行についてもこれまで大きな問題は生じていませんので、来年度に向けて規則変更を検討していけると思います。

最後になりましたが布団リースサービス、部屋探し相談会、インフルエンザ予防接種などは、保護者のみなさまからご意見を頂きながら今年度実施できたことです。来年度からもまた新しいメンバーで寮生活が始まります。引き続きご理解とご協力をお願いいたします。



## 平成28年度を振り返って

校長補佐（専攻科長）  
高野 明夫

専攻科生の保護者の皆様には、日ごろより専攻科の教育活動にご理解ご協力を頂き、誠にありがとうございます。平成28年度を振り返るにあたり、特例適用、1年生の長期インターンシップ、2年生の進路状況の3点について報告いたします。

まず、特例適用についてです。本校専攻科は、特例適用専攻科に認定されて2年目を迎えています。特例が認定されると、学生が学士の学位申請を行う際に、大学改革支援・学位授与機構の実施する筆記試験が免除されます。認定初年度は、機械工学の学位専攻のみ特例が認められていなかったのですが、本年度の入学生からは、5つの学位専攻（機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学）全てについて、特例が認定されています。特例適用専攻科では、学生に特例が適用される代わりに、研究指導教員について審査があります。現在、のべ32名の教員が認定されていますが、9月に追加申請を行い、4名の教員が平成29年度から追加認定されることになりました。これで機械工学6名、電気電子工学9

名、情報工学7名、応用化学5名、生物工学5名、のべ36名が指導教員として認定されたこととなります。全て博士号取得者です。なお、指導補助教員としては応用化学で1名が追加認定され、合計9名となりました。今後も専攻科の充実のために、指導教員等の追加申請を行っていく予定です。

次に、長期インターンシップの概要についてお伝えいたします。長期インターンシップは1年生の後期4か月に渡って行われますが、配属先募集・配属先との打ち合わせ・事前学習等を含めると実質1年がかりでの取り組みとなります。今年は企業・団体に16名、大学に10名が配属されました。この内1名は大学と企業の両方に配属されています。企業・団体と大学との割合はほぼ3：2になっていますが、昨年が3：1でしたので、大学への割合が増えたこととなります。これは、大学と連携して専攻科研究が実施されていたり、大学院への進学希望者が増えたことが原因と考えられます。12月2日にはインターンシップの中間報告会が行われました。2月10日には最終報告会（一般公開）を予定しています。

最後に、2年生の進路についてお伝えいたします。1月13日現在、23名の進路が決まっています。就職予定者は13名（三菱化学エンジニアリング、ソニーグローバルエンジニアリング&マニュファクチャリング2名、東燃ゼネラル石油、朝日電装、チームラボ、矢崎総業、日立ハイテクフィールドディングス、明電舎、クノール食品、

NEC ネットエスアイ、フリーダム、J-オイルミルズ)で、大学院への進学予定者は10名(京都工芸繊維大学、奈良先端科学技術大学院大学、長岡技術科学大学、防衛大学校、名古屋大学、東京医科歯科大学、北陸先端科学技術大学院大学、慶応義塾大学、東京工業大学、筑波大学)

となっています。この他1名が、海外大学および国内大学院を受験予定です。

末筆になりましたが、専攻科への皆様のご支援を今後ともよろしくお願いいたします。

## 各学科から (平成28年度総評)



### 平成28年度を振り返って

機械工学科長  
村松久巳

保護者の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃、機械工学科における教育・運営にご理解とご協力を賜りまして、心より感謝申し上げます。11月に開催しました学科説明会には多数のご出席をいただき感謝申し上げます。

5年生の進路につきましては、好況下の多数企業からの求人と大学からの編入受入れの機会拡大を背景にして、進学および就職へと進路を得ることができました。5年間の学修で養われた実力に基づき、活躍されることを願っています。4年生は来年度に向けて進路のための準備をする時期を迎えました。企業見学、インターンシップの経験および卒業生を招いた懇談会の講話などを参考に、長期・短期のキャリアプランを検討してください。自己分析するとともに進路先をよく調査・検討して、候補をリストアップしてください。進路指導を担当する教員からの情報や保護者との話し合いも大切です。低学年の学生皆様においては、本校が掲げる学習・教育目標の達成とともに、得意な分野の能力がさらに向上したか、新しい知識や技術を身に着けることができたか、苦手な分野を克服できたか、新しいことに興味をもち取り組ん

だか、諸活動に積極的に参加または運営したか、友人を増やし広く交流できたかなど振り返ってみてください。グローバルな経験を積むことも大切です。写真に示すように、昨年の7月に韓国の金烏工科大学から本校に短期留学した学生や9月にメキシコから訪問された工業高校の教員が学生・教職員と交流する機会がありました。前者に関して本校学生が金烏工科大学に出向いて学習体験する機会が計画されています。複数名の機械工学科学生がこの短期留学を希望し、頼もしく感じています。後者はメキシコ国自動車産業人材育成プロジェクトのもとに実施された研修で、来年度も予定されると聞いています。

志を持ちかつ活動を継続すると、時期到来し機会に恵まれます。未来に向けてチャレンジする学生皆様においては、日ごろの学業に励み、学校生活を充実させて、希望に沿った進路となるように、一層の努力をしてください。機械工学科教員一同は学生の成長と発展を支援しますので、保護者の皆様におかれましては今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



工業高校教員の教育研究支援センター視察



短期留学生と共同したウインドカーの製作





## 平成28年度を振り返って

電気電子工学科長  
野毛 悟

日頃より、電気電子工学科の教育・研究にご理解とご支援を賜り、感謝申し上げます。電気電子工学科では、科学技術の進展に柔軟に対応できる「想像力」と自らの知恵と経験をもって形作る「創造力」、社会で先頭に立って押し進める「実践力」が身につくよう努めています。電気電子工学の専門知識は、社会基盤となる電力・情報通信分野をはじめ幅広い産業分野で活躍できる極めて強力な切り札といえます。卒業後の進路選択がより広く、可能性に富んだものとなるよう教員一同が精励しているところです。その一方で、一部学生は高専における実学を修得するための生活・学習習慣が身につかず進級が滞るという現実も看過できません。電気電子工学科ではこの問題に対処すべく、低学年の学力を確かなものにする学習支援活動の強化を推進しています。

今年度の電気電子工学科の進路状況について、簡単に記します。本科5年生は39名で、就職希望者が19名、進学希望者が20名でした。就職について、求人票を受け取っ

た企業数は650社に上り、内170社からご訪問いただきました。来校数は直近3年で最も多く、今後も卒業生への求人は順調に推移すると考えられます。このような中、就職希望者全員が内定をいただきました。就職予定企業は、電力、通信事業関係、製薬、食品関係含め広範囲にわたっています。進学先は、東工大、名古屋大などの有名大学、全国の大学と沼津高専・専攻科です。平成29年度については既に現4年生を中心にして指導を行なっております。就職、進学のいずれも希望がより良い形で実現されるよう教員が一丸となって指導にあたります。

また現3年生を中心として活動している学科プロジェクトは、授業の知識を実践する機会としてトライしてきました。活動の様子は体験入学や高専祭でお披露目し、多くの方に電気電子工学科の学生のポテンシャルの高さを再認識して頂けたものと思っております。

以上、今年度を振り返って簡単に学科の概要を述べました。中学生に「夢の実現」への最も確実な学校として周知されるよう沼津高専をアピールすべく、いろいろな活動を通して高専の魅力を発信しています。周囲の方々に高専の特徴や進路状況などお話いただければ幸いです。電気電子工学科は今後も教育・研究の充実と発展を目指して、教員一同全力で取り組んでいきますので、保護者の皆様の変わらぬご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



## 海外で活躍する卒業生

電子制御工学科長  
遠山 和之

日頃より、電子制御工学科の教育・研究にご理解とご支援を賜り、ありがとうございます。私事になりますが、昨年10月にトロントで開催された国際会議で本学科卒業の高根澤和子さんに10数年ぶりに会いました。高専在学中の成績が非常に優秀だっただけでなく部活動にも熱心に取り組んだ学生です。全国高専体育大会の第24回大会(テニス・ダブルス)では全国3位という成績で、4年の時の担任だったこともあり、学生時代の活躍は、とても強く印象に残っています。卒業後、東京大学応用化学専攻に進学し、光触媒や有機太陽電池等の研究で非常に著名な橋本和仁教授の研究室で博士課程まで学んだそうです。5年前に国際結婚し、現在トロントで生活をしていることを偶然私の研究室を訪れたM科の卒業生から聞き、その卒業生経由でコンタクトを取り、再会した次第です。宇宙飛行士になることを夢見て電子制御工学科に入学し、大学では高専で学んだ専門とは全く異なる応用化学の分野へ進んでいます。なかなかまねのできることはありませんが、そのチャレンジ精神が現在の彼女を支えてい

るのではないかと感じます。今も宇宙飛行士になる夢を捨てたわけではなく、彼女曰く、先の楽しみにとってあるそうです。国際会議の後、メールのやり取りで彼女がクリスマス休暇で12月中旬頃から帰国するとの話を聞き、私が担当しているD4の電磁気学の授業で1時間程度在校生に話をしてもらうことにしました。高専在学中に感じていたこと、大学・大学院での生活、様々な人との出会い、東芝への就職、国際結婚、永住権の取得、豊田通商でのエネルギー関連のビジネス等、高専を卒業してまだ10年程度しか経過していませんが、様々な刺激的な体験談をスライドと共に話して頂きました。話の中で彼女がたびたび口にしたのは、「まだまだ若いから何でもできる。」「周りは女性だからというが、海外では男性も女性も同じ。」ということでした。周りに流されることなく自分の価値観を大切に行動できる彼女の生き方はとても羨ましく感じます。現在は、子育てをしながらエネルギー関係のビジネスで、北米各地を飛行機で飛び回り、自分より20歳以上年上の顧客と英語でビジネスをしているそうです。現4年生は、これから進路を決める大切な時期に入りますが、このタイミングで、海外で活躍する卒業生の話を聞いたのは、とても幸運だったのではないかと思います。人が辿った道を同じように辿り安全に生きる道もありますが、自分の価値観を信じ自分で道を切り開いていく人生はリスクも伴いますが、達成感も大きいのではないかと思います。今後も電子制御工学科の教



育と研究を充実させるため、教員一同全力で取り組んでいきますので保護者の皆様のご支援とご協力をよろしく

お願いします。



## 平成28年度を振り返って

制御情報工学科長  
藤尾 三紀夫

早いもので学科長を拝命してから3年目を終えようとしておりますが、なかなか皆様方のお声に答える事ができず申し訳なく思っています。それでも、保護者や学生諸君の皆様のご支援とご協力を賜ることで、平成28年度の学年末を迎えることができました。改めてお礼申し上げますと共に、深く感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、この紙面をお借りして制御情報工学科の平成28年度を振り返ってみたいと思います。まずは卒業予定者49名の進路についてです。今年は就職希望者も多いのですが、7月には希望者19名の全員が内定（第1希望14名）を獲得し、11月に進学から就職に変更した1名を加えて20名が就職先を決めております。進学に関しては進学希望者28名が国立大学または専攻科の合格を勝ち取りました。なお、進路変更の関係で、まだ1名が受験を行う予定です。就職は学力より人間力が問われます。進学してもいつかは就職活動を行うので、学生諸君には今からで

も人間力を高めるよう意識して欲しいと思います。

制御情報工学科のイベントとしては、11月に学科説明会を開催させて頂きました。100名を超える保護者の方にご参加頂き、感謝申し上げます。当日は学科紹介から進路の報告と併せて現役5年生の活動報告も聴いて頂きました。また、今年は趣向を変えて制御情報工学科4年の目玉科目である創造設計の成果発表会を同時に開催致しました。5件のチームからの学生のユニークなアイデアとデモンストレーションに、参加頂いた保護者の方や3年生からは笑いと感嘆の声があがり、大変好評でした。来年度も実施予定ですので是非ご期待ください。12月には、3・4年の学生諸君を対象に進路懇談会を開催し、5年生からリアルな体験談を披露して貰いました。同時に代表取締役など様々な経歴を持つ5名のOBに来学頂き、仕事内容や体験談、そして今何をすべきかを学生に話して頂きました。先輩の声から学生諸君も刺激を受け、将来を考える切っ掛けとなったようです。これらの様子は、今年度から更新した学科のホームページでも公開しておりますので、是非一度ご覧頂けると幸いです。

これからも制御情報工学科スタッフ一同、研鑽を積み、「学生の夢の実現」の支援に邁進していく所存です。保護者の皆様には今後ともご理解とご支援、ご鞭撻を頂けますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 平成28年度を振り返って

物質工学科長  
後藤 孝信

平成28年度も物質工学科の教育・研究にご支援をいただき、保護者の皆様を始め、関係各位に厚く御礼申し上げます。お陰様で本年度も無事に終わることができました。

4月に物質工学科への入学生43名を新たに迎え、2年生は転科生を含めた40名、3年生は編入学生と留学生を加えた50名、4年生も編入学生を加えた47名、そして5年生は42名の大所帯で今年度をスタートしました。混合学級のため、1年生は物質工学科の専門科目に少し不満を感じたかもしれません。しかし、2年生からは学科のクラスで専門科目も増えますので、授業を楽しみにして欲しいと思います。

1年生は4月に御殿場合宿研修、2年生は10月に東海大学海洋学部博物館とグランシップでの観劇の研修旅行、3年生は1月にスキー合宿研修、4年生は10月に関東方

面の工場見学と、それぞれの学年で行事がありました。これらの研修や見学で得られたことを糧として、学生諸君が立派な技術者となって卒業していくことを物質工学科の教職員は切に願っています。

5年生については、進路をご報告させていただきます。本年度の就職内定者は12名（女子は7名）、進学内定者は30名（女子は6名）で、昨年度と比べると、進学者が多くなっています。就職については、途中、進学からの変更があり対応が難航した時期もありましたが、11月中旬に全学生が内定を勝ち取ることができました。ほぼ全員が第一希望の企業から内定をいただいております。一方、進学においても、希望者のほぼ全員が大学進学を決めています。このように進路先の確保を大事無く終えたことは、大変有難いことと感じております。これも学生達の努力に加え、保護者、OB諸氏、そして学校関係者の皆様の支えがあつての実績と心より感謝しております。今後も現状に慢心することなく、物質工学科の更なる発展を教職員一同で築いて参りたいと思います。

学科行事について報告させていただきます。本年度は、前身の工業化学科と物質工学科の設置50年という大変喜ばしい節目の年となりました。そこで、12月23日(金)に細やかではありますが、記念講演会を開催しました。年末

の休日ではありましたが、卒業生、在校生、教職員OBを含め、150名の方にご出席を頂き、会を盛況の内に終えることができました。関係者の皆様には、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

最後に教職員の異動について報告します。宇部高専から教員交流でお越しただいておりました高田陽一教員がその任を終えて古巣へ戻られます。一年間の短いご滞

在でしたが、沼津高専でのご経験を宇部高専にて活かしていただきたいと思います。また、鈴木猛技術職員が目出度くご定年を迎えることとなりました。40年間に渡る学生実験のご支援に深く感謝致します。

今後とも物質工学科の教育と研究の活動に、ご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



## マネージメントと 地道な努力

教養科長  
佐藤 誠

平成28年度も終わりを迎えようとしています。前回の高専便りに明確な目標を持つことが大切だということを書かせていただきました。今年度、学生の皆さんは明確な目標を持って過ごすことができたでしょうか？ 昨年の夏にリオデジャネイロオリンピックが開催され、皆様も多くの感動を受けたことと思います。その中で、日本体操チームはアテネオリンピック以来の男子団体優勝、内村航平選手が個人総合2連覇を果たしました。この日本体操チームが11月にエコパアリーナで凱旋帰国演技会を行いました。その際、内村選手は、「僕や健三（白井選手）が普通の人と何か違うわけではなく、僕らが行っていることは誰にでもできることです。僕も健三も自分の目標に向かって一生懸命努力したからこのようになっただけで、皆さんと変わるところは何もありません。皆さんも地道に努力すれば僕たちのようになれる」といっていました。不思議なことに、このチームの中で自分の名前がついている技を一つも持っていないのは内村選手だけです（体操では世界大会で初めて技を実施すると実施者の名前が技名となります）。彼の能力から考えれば、自分の名前がついた技を持っていてもおかしくはないはずです。しかし、彼の悲願は個人での優勝ではなく団体での優勝だったために、自分がしなければならないことを十分理解していました。つまり、自分の名前のつくような技を披露することよりもエースとしてどうしたらチームに貢献できるのかを考えていたのです。

目標を達成するためには周到なマネージメント（戦略といっても良いかもしれませんが）が必要です。体操では目標達成には何点が必要か、その得点をとるために自分が今できていることは何で、不足していることは何なのかを理解し、それを補うためにどのようなトレーニングをするのかを考えて地道に努力を重ねていきます。ゴルフのマネージメントにおいても同じことがいえます。トップ選手は、アマチュアとは異なりティーショットを思いっきりとばしてやろうとは考えていません。常にグリーン上で自分にとってベストな位置にボールを置くために、

グリーンの方向から逆算してマネージメントを行います。このことは、勉強にも通じるといえます。自分が目標を達成するためには、何点が必要なのか、その点をとるために今の自分ができていることは何か、その点をとるために努力しなければならないことは何かを具体的に考え、それを達成していくために地道な努力をしていかなければならないのです。勉強のできない学生の中にも努力している学生はたくさんいます。しかし、成果が思うように現れないのは努力の仕方の問題ではないかと思えます。勉強ができる学生とできない学生の差にはこのマネージメント能力が大きく関係していると思えます。綿密な計画を立て、その計画に従ってコツコツと勉強していく地道な努力が求められるのではないのでしょうか。

最後に、今年度で学習サポートセンター長として学習支援にご尽力された勝山智男先生と寮生を暖かく指導してこられた寮監の笹原正和先生が定年退官されます。幸いなことに、お二人の先生方には来年度も再任用教員として学校に残っていただけることになっております。また、学生たちの良き兄貴分として哲学を担当してきた小柳敦史先生が北海道の大学に転出されます。そして、人事交流として体育科に来られた黒田一寿先生が東京高専に戻られることをご報告させていただきます。



## 部 活 動

### 第51回全国高等専門学校体育大会

競技名	種目名	成績	氏名	クラス
陸上競技	男子の部 200m	8位	藤川 泰佑	S 3
卓球競技	女子個人の部 ダブルス	3位	村松 歩香 本多 由佳	C 5 E 5
サッカー競技		3位		

### 第54回東海地区国立高等専門学校体育大会（入賞者・入賞団体）

競技名	種目名	成績	氏名	クラス	
陸上競技	男子の部 200m	2位	藤川 泰佑	S 3	
	400mハードル	3位	石田 剛士	M 3	
	女子の部 100mハードル	3位	佐藤 伊鞠	M 1	
テニス競技	女子個人の部 シングルス	優勝	伊藤 優月	C 3	
	ダブルス	2位	伊藤 優月 小澤 英真	C 3 C 2	
バドミントン競技	男子団体の部	準優勝	田中 宏明 日吉 那央哉 白井 達也 西角 友希 長谷川 大地 鈴木 大晴	D 5 C 3 D 4 E 4 E 3 M 3	
剣道競技	男子団体の部	準優勝	松村 清之介 長谷川 涼平 田中 哲太 磯村 太凌 小原 奈暉 後藤 健太 大内 巧歩	M 5 M 4 D 4 S 4 S 4 C 4 S 3	
卓球競技	男子個人の部 シングルス	3位	平沢 朋幹	E 2	
	女子団体の部	2位	村松 歩香 本多 由佳 堤 瑳智代 内藤 祐里菜 石田 友海	C 5 E 5 C 4 C 3 C 2	
	女子個人の部 ダブルス	優勝	村松 歩香 本多 由佳	C 5 E 5	
		シングルス	2位	村松 歩香	C 5
水泳競技	男子の部	200m平泳ぎ	2位	山崎 蒼人	D 2
		800m自由形	2位	川口 大和	D 2
		200mバタフライ	3位	足立 颯一郎	D 2
	女子の部	女子総合	1位		
		50m背泳ぎ	1位	渡辺 麻彩	C 3
		50mバタフライ	3位	木下 真優	C 5
		100m自由形	3位	久我 五葉	C 1
		100m平泳ぎ	3位	渡辺 麻彩	C 3
		200mフリーリレー	1位	木下 真優 今野 瑤心 渡辺 麻彩 久我 五葉	C 5 D 4 C 3 C 1

### 第3回全国高等専門学校弓道大会東海・北陸地区予選入賞者

競技名	種目名	成績	氏名	クラス
弓道競技	男子個人の部	3位	秋山 亜久里	M 2

## 全国大会出場報告

### 有終の美

卓球部 電気電子工学科5年  
本 多 由 佳

平成28年8月19日から21日にかけて、愛知県豊田市のスカイホールで開催された全国高等専門学校体育大会卓球競技の部女子ダブルス競技、地区対抗団体戦に出場させていただきました。

卓球競技では全国大会出場にあたって、東海地区大会での優勝が絶対条件です。沼津開催だった昨年度の東海地区大会は、地の利を生かしきれず、ダブルス競技の部で準優勝に終わり、連続優勝を逃したこともあり、とても悔しい思いをしました。その時、高専での卓球生活をこんな悔しい思いで終わりにたくないと思い、5年生でも東海地区大会に出場しようと決心しました。

最終学年ということもあり、卒業後の進路が決まるまではなかなか思うように練習することができませんでした。ですが、進路が決まってからは毎日部活に参加して練習し、また外部の方にも指導をいただきました。

そのおかげで緊張と不安を抱えていましたが、5年間で1番の自信を持って東海地区大会に出場することができました。そして、その自信の通り、女子ダブルス競技で優勝し、3度目の全国大会出場の切符を手にするこ

ができました。

今回はこれまでと違って、そこからまた新たな挑戦を始めました。今までは、少なからず、全国大会に出場することで満足してしまっていた私達がいたのです。でも最後の高専大会となる今回は全国大会入賞を目指し、部活動、夏合宿だけでなく、沼津市立体育館の卓球場に毎日通い、さらなる実力向上に励みました。

そして、全国大会の日がやってきました。東海地区大会の時とは違い、挑戦者という立場で今まで積み重ねてきたものを全て出し切り、後悔しないように楽しもうという気持ちで挑みました。女子ダブルス競技では、リーグ予選を1位通過し、決勝トーナメント出場。そして、3位入賞することができました。また、地区対抗団体戦では、東海北陸地区の代表メンバーの仲間と準優勝の成績を残すことができました。

今までお世話になった、顧問の先生方や部活動の仲間、応援してくれた全ての人へ、最高の形で恩返しすることができました。

5年間ペアを組んでくれ、勝負事が苦手だった私を常にリードしてくれ、勝つことの楽しさを教えてくれた村松には本当に感謝しかありません。

最後に、5年間ご指導して頂いた稲津先生、松田先生をはじめとする顧問の先生方、部活動の仲間達、沼津高専教育後援会の方々、応援してくれた家族や仲間のおかげで、成し得ることができました。この場をお借り致しまして御礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

### リレーで全国！

水泳部 物質工学科5年  
木 下 真 優

リレーで全国高専大会に出場したい。今年度、この目標をようやく達成しました。

出場条件である、東海地区高専大会水泳競技において200mリレーでの優勝を果たすことができたのです。

私は4年前の東海地区高専大会で、この種目に参加し、2位に終わりました。あと一歩だった。悔しい。そんな思いで挑み続けた毎年の大会も、目標を果たせずにいました。そして今年度、アンカーを任された私は、どのチームよりも速く壁にタッチし、プールの上から喜びリレーメンバーの笑顔を見ることができたのです。とても嬉しかったです。

いよいよ全国高専大会。出場するからには必ず結果を残したい。そんな思いで向かいました。富山県にて行われたこの大会は、1日ですべての、予選と決勝のレースを行う日程でした。私たちの出場する予選のレースは予選プログラムの最初だったので、大会開始のアップ時間

は、集中してリレーの引継ぎを練習し、失格にならないよう、タイミングを確認し合いました。

そして迎えた、予選のレース。決勝進出の条件は上位8位に入ることでした。招集所で「絶対に8位以内に入ろう」と声を掛け合いました。結果は3位と0.3秒差の4位。次の目標は「絶対に4人で表彰台に上がろう」に変わりました。

全国高専大会、決勝のレース。5年生の私にとっては、高専大会最後のレースでした。結果残して終わりたいと思い、とにかく全力で泳ぎ切りました。しかし、結果は5位でした。予選よりもタイムを落としてしまい、満足のいく結果ではありませんでした。もっとスタートの浮き上がりを早くできれば良かった、キックの強化が不足していた。多くの反省点はありました。しかし、女子部員が毎年、リレーに出場人数ギリギリの程度しかいない中にもかかわらず、ここまでできて良かった、続けていて良かったという思いの方が強かったです。

最後に、私が今まで部活ができたのは、共に励みしながら練習をしてきた仲間と、猛暑の中でもプールの安全管理、整備をしてくださった顧問の先生方の支えがあったからこそでした。本当に感謝しています。ありがとうございました。

## 全国大会を振り返って

テニス部 物質工学科3年  
伊藤 優 月

私は、2016年7月に岐阜県で開催された東海地区高専大会において女子シングルスで優勝、小澤英真さんとペアを組んだ女子ダブルスで準優勝し、同年8月末に岐阜県で開催された全国高専大会にて両種目に出場する機会を得ました。昨年度行われた東海地区高専大会ではシングルスは準優勝だったため全国大会へ出場することが出来ず、とても悔しい思いをしました。その悔しさをばねに今年度初めて全国大会へ出場できたことはとても嬉しかったです。しかし、全国大会の結果は両種目とも初選敗退でした。ほかの地区の選手と圧倒的な実力の差を痛感したとともに練習不足であることを実感しました。全国大会までの練習はシングルス、ダブルス共に基本練習から開始しました。また、近隣のテニスクラブの方々や一般のテニスクラブチームの方々にもご指導を頂きました。普段できない経験をさせていただき、どこが自分の弱点なのか、自分の得意とするボールを生かしてどのような形で相手を攻めていくかなど細かな点までしっかりと練習することが出来ました。

また、ダブルスの練習では自分たちの基本とする陣形を決めて主に前衛練習に多く取り組みました。しかし、迎えた全国大会当日では練習の成果を十分に発揮することができませんでした。特にダブルスでは上級生である私自身がいいプレーをし、試合を盛り上げていかなくてはと考えるあまりいつも以上に緊張して思うようにプレーができませんでした。これからの練習で体力面ではもち

ろんですが精神面も鍛えていかなくてはいけないと思っています。しかし、実際に他高専の上手な人のプレーを間近で見て技術の面ではもちろん試合に対する構えなど自分にはたりていないことを多く学べました。今回の全国大会では反省するところもたくさんありましたが、その分得られるものもたくさんありました。ここでの経験を忘れずに来年度の高専大会に向けて練習に励んでいきたいと思っています。最後に今回全国大会に出場するにあたって指導して下さったみなさん、顧問の先生、応援してくれたテニス部員のみなさん、たくさんの方に感謝しています。本当にありがとうございました。また、本校同窓会からは資金的な援助をいただき感謝しております。来年度の高専大会ではテニス部全員が一丸となって団体でも全国に行けるように頑張っていきます。



## 陸上競技のおもしろさ

陸上部 制御情報工学科3年  
藤川 泰 佑

400m。みなさんは400mを走るといってどのようなことを考えるのでしょうか。陸上競技を経験した人は400mは“地獄”と表現することが多いのではないのでしょうか。それほどきつい競技なのです。陸上競技には4×400mリレーという競技があります。4×400mリレーは合計で1600m走ることから“マイルリレー”と呼ばれています。基本的には試合の最終種目として行われ、大会の花形種目です。各学校の短距離のエースや中長距離のスピードがある人など、さまざまなタイプの人が学校の名前を背負い、全力で戦います。

前置きが長くなってしまいましたが、沼津高専陸上競技部は全国高専大会でマイルリレーに出場しました。予

選落ちと残念な結果でしたが、やっぱり陸上は楽しいなと素直に思える、そんなリレーでした。

1走は100mを専門とするスプリンター。普段は明るく楽天的ですが、バトンを持つとエースの風格が漂い、豹変します。彼はスピードを長く維持することは得意ではないので最初から全力で突っ込みます。とてつもないペースで前半200mを走り、会場をわかせます。もちろん先頭でバトンパス。走り終わったあとすぐに倒れこみ、レースにかける想いを感じました。2走は400mが専門です。同じペースで刻み、2番手でバトンパス。彼の安定した走りがあるからこそ残りの2人は安心して走ることができます。そして3走は中距離選手。スピードに不安がありましたが、気合でカバー。3番手でバトンを渡してくれました。彼は冬に駅伝があるのに、全国高専のために夏場にスピードトレーニングを行い、チームに貢献してくれました。決勝にいけるのは2着まで。最高の順位で僕に回ってきました。しかし、これまで4×100mリレーの予選、200mの予選、決勝と3本走っていた僕は、大失

速し、順位を下げてしまいました。チームは予選落ち、自分の不甲斐なさに絶望したのはこのときが初めてかもしれません。

しかし、チームメイトは僕のことを責めず、「あんだけ走ったのによく走りきってくれたよ。来年がんばろう。」

## 全国大会出場を経て

弓道部 機械工学科2年  
秋 山 亜久里

今年度、私は6月に行われた弓道の高専大会東海地区予選個人にて3位入賞し、沼津高専弓道部代表として、8月末の全国高等専門学校弓道大会に出場してまいりました。

2年生の私にとって6月の地区予選は、自身初となる高専大会でした。会場となった豊田市運動公園弓道場には、富山高専、鈴鹿高専、主催校の豊田高専から、それぞれの学校の代表として出場する選手が揃っていました。やはり高専ということもあり、他校では3年生、4年生の代表選手も多く見受けられます。2年生の私はそうした選手たちの雰囲気には押されながらも、自分自身の射に自信をもっていたことや、遠路はるばる来たこともあって、「この場で満足のいく結果を残したい」と強く考えておりました。

ここで私自身の、弓道についての考えを述べさせていただきます。弓道には、他の部活動で行われるような武道と大きく異なった特徴があります。それは、「対戦相手がない」ということです。多くの武道には、必ずと言っ

## 感謝

サッカー部 物質工学科5年  
原 川 翔 太

私たちサッカー部は8月に行なわれた全国高専大会に参加しました。1回戦で茨城高専、2回戦で福島高専を破り、全国高専大会第3位という成績を収めることができました。

思えば夏休みは部活動に打ち込む毎日でした。全国大会2週間前に、5年生全員が涙を流して喧嘩をした思い出は、私にとって一生忘れられない思い出です。あの時しっかりと腹を割って話したからこそついてきた結果だと思っています。

全国大会に臨むにあたって、自分たちを支えてくれた人たちに自分たちの頑張る姿を見せることで感謝を示すという目標も立てました。今年度は東海大会、全国大会共に沼津での開催であり、運営にも応援にも多くの方の

と温かい言葉をかけてくれました。このチームで勝ちたいと本気で思えました。

今回のメンバーは全員3年生、来年も再来年もチャンスはまだあります。来年こそはアンカーとして仕事を果たし、この学校を勝利に導きたいです。

ていいほど「対戦相手」がいます。一般的な武道やスポーツでは、部活動で個々の技術を磨くこと、日々トレーニングに勤しむこと、これらはすべて「試合で対戦相手に勝つこと」につながっています。しかし弓道は、対戦相手が存在しない場合がほとんどです。大会などでほかの選手たちと、矢の的中率や射形の美しさについて競うことはありますが、こうした大会においても「他人に勝つこと」は目的ではない、と私は思います。大会に臨む本当の目的は、あくまでも「自分に勝つこと」であり、言い換えれば「日々の練習の成果を真に発揮すること」なのだと思っています。あくまでもそれが主であって、結果や成績といったものはその目的が達成されたとき、自然と付いてくると思います。

8月の全国大会においても、そのことを強く感じさせられました。大会では自分の弱みである「早気」を克服できませんでした。練習の成果は発揮できたのか、苦手を克服する努力はしてきたのか、成績や結果にこだわるあまり、本当の目的を見失ってしまっていたと感じました。

今回の全国出場にあたって、自分を支えてくれた多くの人たちへの感謝の気持ちは尽きません。大会で感じたこと、学んだこと、その多くをいつまでも忘れずに、来年度高専大会に向け日々練習に励んでいきたいと思います。

協力を頂きました。顧問や学生課をはじめとする、大会運営に尽力してくださった教職員の方々、サポートにあたってくれた多くの沼津高専生や他学校の学生、応援してくださった保護者やサッカー部OBの方々には感謝の気持ちでいっぱいです。大会期間中は多くの声援のもと、プレーをさせて頂きました。この声援があったからこそ試合終盤の苦しい時間も踏ん張ることができました。本



当にありがとうございました。最後の大会で、お世話になった坂井監督や天田コーチ、濱村コーチにメダルをプレゼントすることができ、とても誇らしく思っています。

振返って私個人のことを考えますと、私の高専生活は非常に充実した5年間であったと胸を張って言うことができます。中でも最も成長させてくれた場こそ、部活動であります。特に今年度は部長として沢山悩むこともありましたが、周りの支えもあり、最後までやりきるこ

ができました。かけがえのない仲間がいたからこそできたことです。この沼津高専で得た経験を、更なるステージで生かしていきます。

部活動が活性化されれば、沼津高専は活気のある、より良い学校になると思います。その中心を担う、熱いサッカー部になっていくことを切に願っています。5年間本当にお世話になりました。

## 行事・コンテスト・その他イベント

### 体 育 祭

#### トラブルバスターというリーダー性

体育祭実行委員長 制御情報工学科3年  
増山 広 人

今年度の体育祭は、第一体育館が使えないことをどう処理するか、というところがスタートでした。その後も、先代から伝えられていなかったことなど様々な問題が起き、高専祭に近いこともあり、とても忙しかったですが、なんとか当日を迎えることができました。しかし、雨。ここまでの準備は、と思いましたが、嘆いていても仕方がないので雨の日のための運用に切り替えました。ですが、時間が経つにつれ、晴れてくると、グラウンドが使えそうな状況になり、先生方から外種目をやってほしいと強い要望があり、調整をしていたらまた雨が降り、といったんやわんな状況となってしまう、それらの問題をさばききることができず、学生および先生方に多大な迷惑をかけてしまいました。このことをこの場を借りて深くお詫び申し上げます。



このような体育祭を経て、私は、時間と共に増加するトラブルの予測・処理の指示、実行を素早く行うトラブルシューティング能力がリーダーには求められることを痛感しました。今回の私には、それが足りていなかったと思っています。この能力は、なにかイベント事を行うとき、そして将来的には、仕事においても必要になる能力だと思っています。恐縮ながらも、来年度も実行委員長を務めさせていただくことに相なりましたので、今年度の経験や感じたことを活かし、よりよい体育祭を目指していこうと思います。

### 高 専 祭

#### 第51回高専祭 ～ Departure ～

高専祭実行委員長 制御情報工学科5年  
杉山 聡

第51回高専祭実行委員長を務めさせていただきました、制御情報工学科5年の杉山聡です。

今年度の高専祭テーマは「Departure」でした。昨年度、高専祭は50周年という節目を迎え、その先に求められるのは次の50年へ向けての「新たな出発」であると私は考えました。そして舞い降りてきたのがこの「Departure」というテーマです。高専祭は毎年回数を重ねるに連れて

進化してきましたが、一部の学生しか楽しめないイベントとなっていたのも事実でした。学生はもちろん、保護者の方々や高専OB、近隣住民の方々、そして教職員までもが楽しめるような高専祭をつくる、という想いを「Departure」に込めました。

今年度は、新たな試みとして2組のアーティストに来ていただき、「高専祭スペシャルライブ」を実施しました。前例のない企画ということもあり、準備・運営にはかなり苦労しました。しかし、アーティストをきっかけに多くのお客さんに沼津高専や沼津について知ってもらうことができ、新たな出会いや可能性を感じました。

私がスタッフ活動を始めたのは、1年の時に当時の副実行委員長に誘ってもらったのがきっかけでした。学年という垣根を超え、上級生と一緒に準備をするのが、たいへん楽しく感じたのを覚えています。そして、学校中



が多くのお客さんの笑い声に包まれ、心が弾むような2日間の雰囲気忘れられず、気づけば5年間もスタッフ活動を続けていました。

今年度は、改めて高専祭スタッフの素晴らしさを実感しました。高専祭スタッフというシステムは、歴代の実

## 3年生合宿研修

### 平成28年度 3年生合宿研修

3年学年代表・合宿研修担当 長 縄 一 智

1月19日(木)・20日(金)の両日、ふじてんスノーリゾート(山梨県鳴沢村)で開催されたスキー研修に、3年生のほぼ全員(207名)が参加しました。

心配されていた天候は、スキー研修中に大きく崩れることもなく、ゲレンデは、陽射しで温かく感じられるくらいでした。合宿期間前に適度な積雪が有ったせいか、雪質もほぼ良好でした。

スキー研修は、技術レベル別に10名前後に班分けし、現地のインストラクターの指導のもと、初日の19日は、11時前から15時半まで、昼食をはさみ実施しました。その後、スキー場近くの富士緑の休暇村に移動し、夕食と風呂を済ませ、学科別にキャリア教育の一環として「きっかけのキッカケ」ワークを担当指導のもと行いました。



行委員会によって築かれた宝です。1年生から5年生までの学生が、笑い、悩み、語り、一つの目標に向かって準備をするという機会は、めったにありません。50年後の沼津高専にも、高専祭スタッフが残っていることを願っています。

実行委員長を経験し、学んだことは計り知れません。責任感や計画性、コミュニケーション能力をはじめ、「どうすれば人を惹きつけることができるか」、「どうすれば人を動かすことができるか」など普段考えないことも向き合う機会となりました。楽しいことばかりでなく苦渋を味わうこともありましたが、実行委員長として駆け抜けた日々が、5年間の高専生活で1番の思い出となりました。

最後に、第51回高専祭を開催するにあたり、ご協力いただいた教職員のみなさま、学生スタッフのみなさま、そして会場に足を運んでくださった全てのお客様に感謝を申し上げます。

ここでは、事前アンケート結果を基に、「自分を分析」し、「級友を知り」、「先人を知る」ワークを行いました。「先人を知る」では、引率の教員から「高専の教員になったきっかけのキッカケ話」を聞いたクラスもありました。このワークを通して、学生は、自らを分析し、将来を考えるきっかけとなりました。

なお、D科では、このワークは事前に行っていたので、この日は、英語で書かれたゲームの説明書を読んで、グループごとに会話禁止でゲームを行いました。日頃のスマホやパソコンでのゲームとは違った緊張感と親近感が盛り上がりました。

2日目は、6時半起床、朝食後再びゲレンデに移動し、朝9時から昼過ぎまで、スキー練習を行いました。スキーの技術も、初日最初に比べ、総じてかなり上達しました。その後、片付と昼食をすませ、16時過ぎに頃学校に戻りました。

体調不良や、脚の痛みでスキーを中断する学生も若干おりましたが、総じて大きな事故やケガもなく、2日間の合宿研修を終えることができました。

研修期間中は、研修に集中し、仲間との話し合いを活





発に行うため、携帯電話、携帯ゲーム機等の持ち込みを禁止としました。学生は、最初不安そうでしたが、カードゲームやボードゲーム、更には、お互いの会話などで盛り上がり、満足していた様子でした。

この集団研修を通して、協調性、社会性、自立心を養

い、お互いの友好を深めることができました。

準備、引率等で関係頂いた教職員をはじめ、旅行会社、スキーリゾート施設、宿舎、バス会社等関係各位には大変お世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。

## ロボットコンテスト2016

### 14年ぶりの決勝進出 ～ロボコン部の軌跡～

ロボコン部顧問 電子制御工学科  
青木 悠 祐

日頃よりロボコン部の活動へのご理解とご声援をありがとうございます。今年度もアイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト（高専ロボコン）、東海北陸地区大会が10月9日(日)に氷見市ふれあいスポーツセンター（富山県氷見市）にて開催されました。

2016年度の競技課題はロボットによる「新大陸開拓」でした。学生が「探検家」として新大陸を目指し、待ち受ける障害をロボットで乗り越え、新大陸を開拓した証としてブロックを積み上げ「砦」を築き上げました。今年の競技課題はロボットの台数および展開サイズに制限がなく、大会の名前通り、アイデア対決にふさわしい課題でした。

沼津高専からはAチーム「くれてい～ぶ（クレティブ）」、Bチーム「軽銀高速道（ケイギンコウソクドウ）」の2チームが出場しました。部長S4関君のもと、AチームリーダーS4関君、BチームリーダーC3磯村君を中心として総勢45名の部員たちが連日作業を進め、今年こそは全国へ、と大会に臨みました。結果として、Aチ

ム「くれてい～ぶ」は準優勝と特別賞YASUKAWA賞をBチーム「軽銀高速道」は準々決勝敗退のベスト8と近年稀にみる好成績となりました。

Aチームについては、当初4台のロボットで参戦する予定でしたが、重量制限に苦しみ、試合には2台で参加することになりました。昨年の結果をふまえて約1年間、全国出場を目標にS4関君を中心にずっと動いて来ましたので、すべてのパフォーマンスを発揮できない悔しさはありましたが、難易度が高かった今回の競技に対して確実にはじめの課題をクリアする機構がうまく動き、抽選結果にも恵まれて見事決勝戦に進出することができました。決勝進出は14年ぶりとして学生たちは本当に喜んでいました。全国推薦を受けることはできませんでしたが、今年の学生は本当によく頑張りました。顧問としても素直に褒めたいと思います。Bチームについても、初戦の相手が強豪校とドキドキの対戦でしたが、自分たちにできる最大限のパフォーマンスを発揮し見事勝利、その後も、順調に勝ち見事ベスト8となりました。独創的な橋を架ける構造をすべて披露できなかったため、満足はしていませんが、次年度につながる良い一歩となりました。

「沼津にとっての全国への道のりはまだ遠く」と昨年の高専だよりでご報告してから1年、全国は少し、近づいて来ました。今後も沼津らしい技術をアピールできるよう、しっかり反省をし、技術力をあげ、新体制で動き出したいと思います。今後ともロボコン部の活動へのご理解と部員達へのご声援をよろしくお願いいたします。

## No Creative, No Change

ロボコン部部长 制御情報工学科4年  
関 優 志

高専に入学して、ロボコンの全国大会に出場したい。私がお願いを叶えるためにロボコン部で活動を始めてから早4年が経とうとしています。今までにチームリーダーや部長を務めてきましたが、私自身なかなか思うような大会結果を残すことができていませんでした。部長として参加した昨年度の大会も前年に引き続き、A・B両チームとも東海北陸地区大会初戦敗退という結果となり、非常に悔しい思いをしました。そのため私は、このままでは終わりたくないという強い思いから、引き続きもう1年間部長を続け、またAチームのリーダーも務めることを決めました。



そこで私は、部長として「経験から成長する」という自己目標を立てました。今まで経験してきた過去3回の大会で失敗したと思うことや後悔したことを考慮し、同じ失敗を繰り返さないようにしなくてはなりません。その目標を達成するためにチーム体制の変更やチーム結成

の時期を半年早めるなどの対策をし、部活全体で約1年間かけて準備を行い今年度の大会に臨みました。また、Aチームにおいては、今までにないような独創的なアイデアで例年とは違ったチームやロボットにしたいという思いから“*No Creative, No Change*”というスローガンを掲げ、チームの方向性を明確化させました。

今年度は10月9日に富山県氷見市にて東海北陸地区大会が行われました。競技課題は「ロボット・ニューフロンティア」。フィールド上に置かれたブロックをロボットが障害物を乗り越えながら運び、指定された場所に積み上げます。今年も沼津高専からは2チームが出場しました。努力が実り、Aチームは14年ぶりに決勝戦に進出し準優勝、また特別賞（安川賞）を受賞しました。Bチ

ームも全20チーム中ベスト8まで勝ち進みました。残念ながら全国大会出場には手が届きませんでした。両チームとも確実に成長した大会であったと感じています。

この結果に決して満足はしていませんが、私が昨年掲げた「経験から成長する」という目標は達成できました。「努力したことがすべて結果につながるとは限らないが、努力なしでは結果は生まれない。」私の3代前の部長の言葉です。今大会でも1年間努力してきたことのすべてを披露することができていたら、と思うと悔いは残ります。しかし、毎年少しずつではありますが着実に進歩し、全国大会出場にあと少しのところまで来ました。この波に乗り来年度も部員一同全力で活動し上を目指します。

## 第27回全国プロコン大会

### 伝統を築く —平成28年度全国高専 プロコンを引率して—

プロコン同好会顧問 制御情報工学科  
鈴木 康 人

高専のコンテストという歴史の古さからいっても知名度からいっても「高専ロボコン」を思い浮かべる方が多いでしょう。実は高専のコンテストには「ロボコン」以外にも、いくつかあります。高専のコンテストとしては2番めに古く、産業界や学会からも注目を集めているコンテストとして「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」、略して「高専プロコン」があげられます。

インターネット検索が可能な方は「プロコン」というキーワードで検索をしてみましょう。グーグル検索であれば検索の一番最初に、そうではなくても上位に、「高専プロコン」のウェブページを見つけることが出来るはずです。

ロボコンでは毎年、作成するロボットのルールが変わっています。プロコンでは、特定のテーマにそったコンピュータ内蔵のシステムを作成する「課題部門」、コンピュータ内蔵のシステムを自由に作成し発表する「自由部門」、コンピュータで解くのに時間がかかるような問題の解き方を競う「競技部門」の三つの部門に分かれて、それぞれの部門で優勝を競います。私はほぼ例年、競技部門を引率しています。

課題部門のテーマは一度決定されますと数年間固定されます。本年度から課題部門では東京五輪開催にあわせて「スポーツで切り拓く明るい未来」というテーマとなりました。

プロコンはプログラミングばかりではなくプログラムの優劣も競います。「課題部門」と「自由部門」ではコンピュータの装備されたシステム全体の優劣を競いますの



で、アクチュエータや液晶プロジェクタを含めたメカトロニクス技術なども盛り込んだシステムで参加します。

全国大会に参加するためには少ないページでシステムの特徴を記した書類による審査を受け、パスする必要があります。本校ではこれまで自由部門で企業賞を受賞した経験がありますが、最近では書類審査を突破できない悔しい状況が続いています。一方、競技部門では平成26年度の大会での3位を最高位に、昨年平成27年度大会まで4年連続の決勝進出を決めており、本年度の決勝進出も期待されました。

平成28年度大会は鳥羽商船高専が主幹となり、10月8日、9日に三重県伊勢市で行われました。沼津高専は全部門で応募しましたが競技部門のみが全国大会に出場することができました。

競技部門の現場にいますと、例年、信じられないほど非常に才能のある学生がどこかの高専にいることを耳にします。そうした学生が参加する競技部門は問題のバランスを取ることが非常に難しい。ときにはバランスが崩れることがあります。本年度はバランスが取れていたとは言いかねる問題でした。

本校の代表はこの状況で一回戦を敗退しながらも敗者復活戦から決勝戦まで進出を果たし、5年連続の決勝進出を果たすことができました。こうした実績から伝統というものが生まれていくのではないかと感じています。

高専プロコンはネットで中継も行われますし、ネットでこれまでの大会を見ることも出来ます。来年度は徳山

で開催されます。是非、現場で、あるいはご自宅からのご声援をお願いいたします。

## 人間vsコンピュータ

プロコン同好会長 制御情報工学科4年  
佐野優汰

今回のプログラミングコンテストの競技部門の内容は何の模様もない木片をピースとした「パズル」でした。

フォン・ノイマンは「私の次に頭の良い奴ができた。」とコンピュータができたときにいったそうですが、私たちは「自分より頭の良いプログラム」を作らなければならなかったのです。

私たちが普段パズルを解く際、ピースの形や大きさに注目して、このピースならばここに嵌りそうだなと思考した上でピースを当てはめていきます。人間はこれをいとも簡単にやってのけてしまいますが、プログラムで再現しようとするとそう簡単にはいきません。

カメラで写真を取り込み、その画像を2値化、エッジ検出、輪郭検出、直線近似、枠とピースに分解、などの

様々な処理を施してようやく、プログラムはひとつのピースを認識することが出来ます。

この大きなハンデの中で、より効率の良いアルゴリズムを模索し、どうやって人間の手に勝てるプログラムを作成するかが私たちの課題でした。私たちに与えられた時間は思っていたより短く、結局私たちのプログラムは人間の手には勝てない状態でのプロコンの大会へ出場となってしまいます。

一回戦では、あっけなく負けてしまいました。その夜、私たちは作戦を改め、コンピュータと人間、それぞれの得意分野を活かす戦法に変更しました。次の日に開かれた敗者復活戦から、準決勝と順調に勝ち進み決勝まで行くことが出来ました。しかし、決勝ではそう上手く事は続かず敗退してしまいました。結果は12位となってしまいました。私たちに悔いはありません。

今回の大会で、自分たちは新しい技術、それからコンピュータ、人間の得手不得手についての新しい知識を得ることが出来ました。この知識を来年度に引き継いで行きたいと考えています。

## 東海北陸地区高専英語スピーチコンテスト

### 完成へのコネクション

電気電子工学科2年 岩倉一真

始まりは、大体夏休み前。いつものように、総合英語の授業を受けていた時のことでした。「英語スピーチが秋に行われるから、気になった人は英語科の先生へ」昔、姉が英語スピーチをやっていたことを思い出した私は、何となく気になってその英語科の先生の元へ向かいました。もしかしたら、将来いつか役に立つだろうと。そこで渡された、一枚の紙。内容は、とある人が作ったスピーチコンテストの原稿。量を見て、内容を見て。これならできるかも、と思い至ったのがスタートでした。

それから暫くして、高専内での出場者決定に無事名前を載せてから、自分の話したいことを日本語で書き、それを英語に訳す…。この二つのことをするように言われたのは良かったのですが、日本語で書いた文を所々訳そうとすると、英語では変な文になったり、それ以前にそもそも訳が無かったりと、中々困難な道のりを通りました。

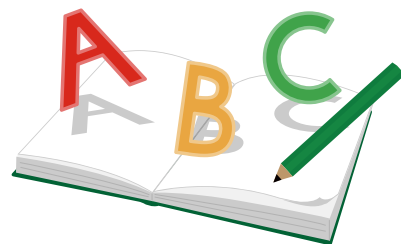
でもそこで救いになったのが、色々な先生や家族でした。日本語では難しい部分を、英語として成り立つような言葉へと変えてくれた英語科の先生。私では発音が分からなかった部分を教えてくれたり、発音に対する自信

を与えてくれた、父やネイティブスピーカーの先生。スピーチとしての注意点を、昔の記憶などを基に教えてくれた姉や母。皆のおかげで、文の記憶も、ペースも、いろいろなものをつかめたと思えました。

そうやって月日が経ち、待ちに待ったスピーチのステージに上って、今まで色々な人たちが教えてくれたすべてを使って、自分の話したいことを話して。その時に感じた視線は、緊張などではなく、むしろ私に楽しさを与えてくれるものでした。そしてそれと同時に、私がここに立つ理由が実績の為ではなく、発表することそのものの楽しさそのものを求めているからだと気付いたのです。もし色々な人たちが救ってくれなかったら、私はこの視線に恐怖を覚えていたでしょう。ただ発表する、それだけの為に前に出ることは無理なのだとは分かった気がしました。

「…Thank you for listening!」

英語スピーチの最後を、よくある定型文で締めて、拍手を受けながら、自分の席に戻ったあの時の感覚。あの時感じた楽しさは、これからも忘れることはないと思います。



## On the Other Side

物質工学科4年 朝比奈 佑 磨

11月12日、富山高専本郷キャンパスにて東海北陸地区高等専門学校英語スピーチコンテストが開催されました。入選はなりませんでしたが、よい経験、よい挑戦となったと感じています。しかし、出場に至るまでは多くの反省すべき点がありました。次年度以降の出場者の参考になることを願い、ここに反省を綴らせていただきます。

1つ目の反省点は、スピーチ内容がなかなかまとまらなかった点です。私は昨年度までもスピーチコンテスト出場に向けて挑戦してきました。その努力の甲斐あってか、今回初めて出場することができました。しかし、昨年度まで考えていたテーマは三島市英語スピーチコンテストで話してしまったこともあり、1からテーマを考え直さねばなりません。このテーマがなかなか決まらず、テーマが決まってからも文章をなかなか書けず、準備が大幅に遅れてしまいました。来年度以降挑戦を考えている方はぜひ、今からでも考えてみることをお勧めします。

2つ目の反省点は、時期を考えずいろいろな予定をスピーチの時期に詰めてしまった点です。スピーチの練習に高専祭スタッフ、TOEICの勉強、レポート…と、やるべきことが溜まってしまったために睡眠時間の確保や体調管理が不十分でした。これによりスピーチの1週間ほど前から声をうまく出せなくなってしまう、違和感はスピーチ当日になっても消えませんでした。出場を検討し



ている方はこの時期に何があるのか、どんな授業、実験があるのかといった調査を行うとよいと思います。

1つ、反省ではなく英語スピーチに挑戦した先輩として、以降挑戦する後輩たちに伝えておきたいことがあります。それは、絶対に心折れないということです。私は2年時から3度出場に向けて挑戦し、2度校内選考で敗れました。発音がおかしい、感情表現がなっていないと注意された数は歴代出場者でも最多だと思います。しかし、そんな私でも出場でき、入賞はできませんでしたが価値ある経験をさせていただきました。出場枠が2人と少ないために、どうしても校内選考で落ちてしまうこともあるかと思っています。しかし、そこで諦めず踏ん張っててください。苦難の向こう側に辿り着いた経験はきっと心の支えになるとと思います。

最後となりますが、引率して下さった藤井先生、発音指導をして下さったモロイ先生、その他支援くださった多くの方々に厚くお礼申しあげます。

## 第55回全国高等学校生徒英作文コンテスト

このコンテストは1年生の部と2・3年生の部にわけそれぞれに与えられたタイトルについて自分の思いを600語ほどの英語で書くものです。今年是全国の高校生から1年部に738作品、2・3年部に856作品の応募があり、沼津高専から10名が応募して次の学生が入選を果たしました。

2・3年生の部

テーマ：“Age 18: The First Step of Our Adulthood”

入選 松本 浩輝（機械工学科3年）  
 入選 戸部 泰佑（物質工学科3年）  
 入選 猪田 洋介（機械工学科2年）  
 入選 高須 麗奈（物質工学科2年）

## 学生であるという特権

機械工学科3年 松本 浩輝

はじめに、この度「第55回 全国高校生英作文コンテスト」にて入賞したことにつきまして、高専だよりの掲載の機会をいただき大変嬉しく思います。

私がこのコンテストに応募するようになったのは、1年生の夏休み前に英語科で当時総合英語の担当だった藤井先生に声をかけていただいたことがきっかけです。初

めの英作文コンテストのテーマは「How to Best Enjoy My School Days」で、中学生時代に得た経験や自分の考えを書き連ねました。今、改めてその作文を読み返してみると、初々しくて笑ってしまう部分もありますが、高専に入学したときから自分のスタンスは大きく変わっていないことを実感しました。その421語の英作文が入賞したことが自信につながり、2年次、3年次とこのコンテストに応募してきました。

あくまで主観ではありますが、このコンテストの特徴は日本語的であることです。難しい英単語や文法を多用して英作文を作ることよりも、ひとつの英作文の中に起

承転結や「なぜ？」に対する答えがある文章を作ることの方が大切だと思います。私はいつも自分の考えをまとめるために日本語原稿を作るところから始めていました。日本語と英語ではニュアンスの違いがあったり、より伝わりやすい熟語的な表現があったりするので、完成した日本語原稿を英作文に起こすのは大変です。それでも、十分に時間をかけて納得する英作文に仕上げることができるので、あまり英語に自信がなくても取り組むことができます。

最後に、1年生のときから英作文コンテストに応募し

続けて感じたことは、やってみたいと思ったことはチャレンジすべきだということです。当然のことのようですが、学生と社会人ではチャレンジにかかるお金も環境も大きく変わってしまいます。特にここ沼津高専では英語に限らずそれぞれの分野において様々な機会があるので、より多くの学生にそれらの機会を是非チャンスに変えてほしいと思います。また、最近TOEICの関心が高まっているのでこれまでの経験を活かして取り組んでいこうと思っています。

## 第11回読書感想文コンクール

応募作品 191 点

### 最優秀賞

#### ・自由図書の部

カフカの『変身』を読んで

1年4組 眞田 秋菜

#### ・課題図書の部

『ハーレムの闘う本屋』を読んで

1年2組 金井 一真

### 優秀賞

#### ・自由図書の部

後悔すること——『あの日の花火を君ともう一度』を読んで

1年1組 青島千恵理

生きている者として——『弟を殺した彼と、僕。』を読んで

1年1組 貝嶋 志斗

『いのちのハードル』を読んで

1年1組 久保 小拍

『こころ』を自由に読めば——『こころ』を読んで

1年1組 仲尾 優希

『山月記』を読んで

1年1組 後藤 健

『フランケンシュタイン』を読んで

1年2組 網川 行生

『光りのうつしえ 廣島 ヒロシマ』を読んで

1年2組 加賀谷勇生

『ハッピーバースデー』を読んで

1年2組 萩倉 深月

「罰、じゃあないのか」——『人間失格』を読んで

1年2組 橘 広誠

『旅をする木』を読んで

1年3組 川田 露

ゴミ無き日本へ——『海はゴミ箱じゃない』を読んで

1年3組 佐藤 陸

『大地のランナー』を読んで

1年3組 梅村 悠生

「馬鹿」とは——『おちゃらけ王』を読んで

1年4組 阿形 明音

『伊豆の踊子』を読んで

1年4組 高木 洋人

『舞姫』を読んで

1年4組 川崎 琴乃

『雪とパイナップル』を読んで

1年5組 久我 五葉

『コンビニ人間』を読んで

1年5組 三須 杏果

『風をつかまえた少年』を読んで

1年5組 田林 俊祐

「円卓」とわたし——『円卓』を読んで

1年5組 小畑 恵美

#### ・課題図書の部

『タスキメシ』を読んで

1年3組 飯尾 成輝

本から学んだ生きるために必要なこと——『ハーレムの闘う本屋』を読んで

1年3組 岩城 伶

『シンドララーに救われた少年』を読んで

1年4組 深澤 元喜

本心では——『タスキメシ』を読んで

1年5組 大井慎太郎

## 充実した読書生活にむけて —読書感想文コンクール報告—

国語科 小村 宏 史

本校図書館主催、第11回読書感想文コンクールの結果についてお知らせします。本年は自由図書部門、課題図書部門あわせて197編の感想文が提出され、国語科および図書委員会での査読を経て、最優秀賞2編、優秀賞23編が受賞対象となりました。

現代は、情報通信機器の発達により、書籍に拠らずとも情報を得られる時代です。しかし、書籍の価値が消えたわけではありません。一冊の書籍が世に出るまでには、幾多の人の目に触れ、精査される過程が存在します。ひとりよがりな内容では、世に出すことはできないのです。ウェブ上のテキストとはまた違った価値をそこに認めることができるでしょう。

幸い、本校学生は基本的に読書好きとみえて、自由図書部門では、小説、エッセー、評論、ノンフィクションなどなど、実に多種多様なジャンルの書籍を対象にした作品が投稿され、査読者を楽しませてくれました。そのなかで最優秀賞に選ばれたのが、眞田秋菜さんの「カフカの『変身』を読んで」です。カフカの代表作『変身』

は、一般に不条理・シュールなどと称されがちな作品ですが、眞田さんはそこから現実に生きる人間の心の闇を主題として読み取りました。すなわち、本作は主人公グレゴールの身体的「変身」だけでなく、彼の家族の内面の「変身」をも描いているという理解です。破壊された日常と、それに伴う人の心の「変身」という視点は、我々の生活と直結した深い問題意識のもとでの読解を示すものといえるでしょう。

課題図書部門では、金井一真君の「『ハーレムの闘う本屋』を読んで」が最優秀賞を受賞しました。黒人差別と闘った書店主・ルイス・ミシヨアの生涯を記したドキュメンタリー小説を対象に、金井君はそのルイスの情熱的な生き方への深い感銘を、「行動に移すことの大切さ」という率直で前向きな言葉で表現してくれました。さらに、本作の文体的特徴、すなわち二人称視点での語りという点に注目し、その言語表現的効果まで分析するという視点をも示すなど、書評的な内容を含んだ力作となっています。

この二編の他にも優れた感想文が多々ありました。若い感性のもと、実によくアンテナを張り巡らして本を選び、かつ深く読んでいることに感心した次第です。このコンクールを踏み台に、学生諸君が今後より充実した読書生活を送ってくれることを期待します。

## 知財教育

### TKYで君の「アイデア」を 地域の「財産」にしよう!

電気電子工学科 大津 孝 佳

特別同好会『知財のTKY(寺子屋)』は、「地域特性を活かし、地域にある資源を有効に活用し、地域の課題に学生達のアイデアで挑戦する知的財産学習活動の推進」を目的に、2016年4月に設立し、2016年度は63名が活動しました。2016年度顧問は大津孝佳(電気電子工学科教授)、学内統括部長は秋山奈穂(電気電子工学科5年:以下E5)、学外活動統括会長は本多由佳(E5)、開発研究統括幹事長は矢幅達也(E4)、企画室兼マネージャーは小池菜友(E3)、教育室兼マネージャーは園田歩美(E3)、広報室は小泉理佳(E3)、運営管理室は山下美穂(E3)、プロジェクト統括は庄司和樹(E5)の役員を置いて活動を開始しました。活動の方向性を示す為、TKY Creative Challenge Compass(CCC)を設定しました(図1)。活動の中心は「アイデアの創造・保護・活用」であり、創造活動を推進し、学会やイベントでの活動発表やパテントコンテストへの参加、アイデア創造の為のTRIZ教育とその実践を中核としています。

NはNew mobility development for Futureとして、KV-BIKEを通し、未来のモビリティ(移動/介護/福祉)

へのアイデア創生をしています。KV-BIKEとは、充電式単三電池40本で走る自転車のことで、F1のコースを走るEne-1 GP SUZUKA大会に、貝嶋志斗(E1)・小野寺歩輝(E1)・稲葉風(E1)・金子直樹(E1)・梅村悠生(E1)・阿形明音(C1)・杉山結紀(E1)・高野舞(E1)・望月万里衣(E1)・岡水楓人(E2)で挑み、全国総合5位でした。また、Ene-1 GP MOTEGI大会には、大野裕太(M2)・佐藤光(M2)・小澤空(M1)・佐藤智晴(C1)・稲葉風で臨み、大学高専部門「優勝」のトロフィーを手に入れました。

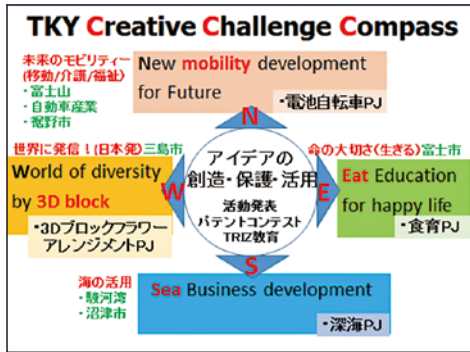
EはEat Education for happy lifeとして、富士市と連携し、3Dブロックロボットを用いて、色と栄養のバランスを教える食育活動を行いました。秋山奈穂(E5)・本多由佳(E5)・矢幅達也(E4)・小池菜友(E3)・小泉里佳(E3)・阿形明音(C1)・桑田一穂(C1)、稲葉風・貝嶋志斗・加藤亮大(E1)・杉山結紀・高野舞・望月万里衣・小澤空・佐藤智晴・岡水楓人・園田歩美・山下美穂は、日本高専学会年次大会、日本動物学会、静岡健康長寿フォーラムにて発表を行い、日本高専学会活動奨励賞、日本動物学会中部地区大会優秀賞、日本動物学会全国大会優秀賞を受賞しました。

SはSea Business developmentとして、駿河湾を活用したアイデア創生を目的とし、沼津市やヤマハマリーナ沼津と連携した深海調査や海のブロック教室を行いました。鈴木和馬(M2)・石川由輝斗(M2)・岡水楓人・稲葉風・貝嶋志斗・金子直樹・阿形明音・杉山結紀・高

野舞・望月万里衣・桑田一穂・加藤亮大（E1）・小澤空・佐藤智晴・小池菜友・古地幸奈（C4）は、リアルタイム観察ができる200mケーブルカメラシステムを製作し、30-50mのマリンスノー堆積の様子や90mでの植物や魚などの観察に成功しました。更に、海の魅力を表現するロボット教室を行いました。

WはWorld of diversity by 3D blockとして、山下美穂・園田歩美・小池菜友・萩原隆義（E5）・尾原航平（E

5）・田代治己（E5）・秋山奈穂・本多由佳・藤田真太郎（E5）・迫川瞭（E4）・廣瀬正誠（C4）・矢幅達也・小泉理佳・佐藤智晴・武田光輝（D1）・杉山結紀・望月万里衣・高野舞・小澤空・金子直樹・桑田一穂は、アーテック社の3Dブロックを活用し、三島市と「花とロボットの融合」を目的に、世界初のオランダスタイルのフラワーアレンジメントを製作展示しました。



## 退職教職員から



### あせらずに待つ

教養科  
 勝山 智 男

本年3月をもって沼津高専を定年退職することになりました。2002年度に着任して以来、15年間にわたり、皆様には大変お世話になりました。本校に着任する前は、大学で研究センターの生活をしてきましたので、高専の寮・担任・クラブ活動などすべてが新しい経験でした。まごつくことも多かったのですが、学生や保護者の皆様および同僚の教職員に助けていただきながら何とかここまでやって参りました。感謝の気持ちでいっぱいです。4月以降も再任用として引き続き本校で教育活動を続けてまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

15年間の高専生活を振り返ってみると、担当の物理学関係の諸授業はもちろんのこと、本校が会場となって開

催された技能オリンピックを学生会顧問として支援したこと、学際教育やミニ研究の立ち上げに携わったことなど、全く退屈しない日々でした。いろいろやってきた中で「未完に終わったなあ」と思うのは学習支援活動です。この紙面を借りて学習支援について思うことを書いておこうと思います。

高専は早いうちから工学の専門教育が始まり、そのための基礎科目である数学や物理の授業進行も早く、中学までの勉強方法では追いつかないことも多くなります。このため、入学してしばらくたつと、高専の勉強に戸惑うようになる学生は少なくありません。これを「まあいいや」と放っておくと、わからないことが雪だるま式に増えていき、勉強する気もなくなり成績が低下、悪くすると誰も望まないのに留年や進路変更追い込まれてしまいます。現に、高専の留年率は高等学校に比べるとかなり高いのが実情です。こうした、勉強に躓いた学生にもう一度自分の勉強を見直しさせるとともに、自分なりの学習姿勢を一緒になって作り上げる活動を、先輩教員とともに立ち上げました。「なんでも科目相談室」と名付

け、物理実験室の一角を借りて、学生と向き合い、時間をかけて勉強について考えました。こういった活動は現在も学習サポートセンターの中で引き継がれています。(来年度もセンターの一員として活動を続けます。図書館1FのFuji caféをお訪ねください。)

このようにして勉強の改善方法について学生と共に考え、最良の勉強方法を見出し、これを続けていけば必ず復活する、と(学生も教師も)確信できたとしても、必ずしもすべてがうまくいくわけではありません。なぜか。がんばって勉強した割には、成果がすぐにはあらわれないからです。成果がすぐに見えなくても、努力を続けていけば、必ず報われます。できない努力ではないのです

(そんなに高すぎない目標を立てていますので)。でも、それが待てないのです。本人も家族も、そして学校も……。

何かを成し遂げた偉人の伝記を読むと、みな努力を重ね、時間をかけて困難を乗り越えています。最初の試行で完成してしまった、なんてことはほとんどありません。勉強に躓いても、時間をかけてやり直せばいいのです。学生諸君、自分で決めた勉強方法なのだから途中で放り出すなよ！保護者や教師の皆さん、本当の力は時間をかけて作っていくものではないでしょうか。本人が努力しているのならあせらずに待ちましようよ。



『人柄の良い〜』を  
育てる教育寮

寮 監  
笹 原 正 和

本校の教育理念は、「人柄の良い優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」です。豊かな人間性を備え、低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。と、教育方針にも明記されています。まさに、寮として大きな役割と責任が求められています。

具体的に寮生活の中で実践されていることを紹介し、寮の様子と学生の成長を伝えたいと思います。最初は、なんといっても挨拶です。入学後最初に受ける洗礼が、挨拶の声の大きさです。腹の底から声を出す、体育会系の大きな声の挨拶は、新入生には大きな戸惑いがあり、今まで経験をしたことが無い学生がほとんどだと思います。一日三回の点呼時に呼名されて、非常識的な大きな声で「ハイッ！」と返事をしています。先輩への挨拶は、時間や場所も関係なく大きな声です。そのおかげで、宿直の先生方からうるさくて休まらないとお叱りをうけた事もありました。さすがに早朝や深夜の挨拶は指導しましたが、大きな声の挨拶は、さすがにしく、こんな経験

もありかと、私は好きでした。

二つ目は、自治寮としての寮生会の活躍です。高専の中には点呼を教員が行っている学校もあります。しかし、本校は学生が行っています。もし点呼に遅れた場合などは、階長、棟長が中心となり所在を把握し、教員に報告、本人には、点呼不明として、寮生会風紀長が中心となり学生同士でペナルティーを科し、再発を防いでいます。ミスを犯した学生も、指導する立場の学生もお互いを思いやり、品位と節度を保つことは、共同生活で経験できる最高の自己研鑽だと思います。

また、寮生会が行う各種行事は、上級生から下級生への指導と同時に、伝統の継承、コミュニケーション能力を育てています。上級生は伝えるべき内容を分かり易く伝える工夫をし、率先垂範を実践しています。下級生は一緒に行動する先輩に尊敬の念を抱き、多くのことを吸収しています。一年生から、将来はあの先輩のような役員になって後輩を育てたいという感想を聞くと、いい経験をしているな、と嬉しくなります。

入学当初は、辛いことや寂しいことがあり、寝る前には布団の中で涙を流していた、と思いを語る役員もいましたが、共同生活によりお互いに協力することを学び、助け合い、切磋琢磨することにより、思いやりのある、素直で優しい人柄を築いて欲しいと思います。



定年を迎えて

技術長  
鈴 木 猛

今年度をもちまして定年退職を迎えることになりました。1977年4月に工業化学科に採用されてから40年間勤めてまいりました。今まで、教職員の皆様には大変お世話になり心より感謝申し上げます。

私が沼津高専に就職した頃は、第1次オイルショック

と第2次オイルショックの間の時期でした。沼津での就職先がなかなか見つからず、高校の恩師に相談したおり、沼津高専の工業化学科で欠員が出来るとの連絡をいただき、とにかく仕事をしなければ、との思いで本校に紹介していただきました。偶然のような形で決めた就職でしたが、沼津高専に就職できたのは本当に幸運だったと思います。

就職当初は慣れない仕事に苦勞しながらも、慣れてくるに従い楽しさを感じられるようになってきました。特に、学生との交流が仕事への意欲を高めてくれたのだと思います。学生達とは、とても沢山の思い出を作ってきました。仕事で役に立っているガラス細工は、寮祭



のためにガラス細工を作っていた学生に教わって始めました。就職してから始めたテニスは当時のテニス部の5年生に教えてもらいました。また、高専祭でガラス細工のお店を一緒にやったり、スキーに連れて行ったり、サッカーをやったり、どちらかと言うと仕事以外のことばかりですが、だからこそ、彼らに近い存在でいられたような気がしていますし、この仕事をしているからこそ得られたものだと思っています。

私は、人生の最後には「悪くない人生だった」と言いたいと考えています。楽観的ではありませんが、今振り返ると、良い時も悪い時も失敗も数多くありましたが、人に恵まれ、職場に恵まれた、幸運な人生だったと思いま

す。これからもそうあるように生きていけたらと思います。

沼津高専の学生には、自分の思い描く未来を実現する力があると信じています。今はその準備段階です。多くの経験を積み、自分の目標を見つけたらその実現に向かって進んでください。そして、「良い人生だった」と思えるよう、悔いの無い人生を歩いていっていただきたいと願っております。

最後に、沼津高専にかかわる皆様方の今後のご健康とご活躍を祈念し、これまでの皆様から頂いたご厚情に深く感謝申し上げます、退職のご挨拶とさせていただきます。皆様、本当に有難うございました。

## 卒業生・修了生から

### 高専で過ごした5年

機械工学科5年 鈴木康男

高専での5年間は、私の人生においてとても貴重な時間となりました。勉学や部活動、学生会での活動、プライベートでの自分の趣味など多くのことに有意義に時間を使うことができた5年間でした。

1年生の頃は、親元から離れた寮での生活や中学の時より専門的で難しい授業についていけるかなどの不安に、高専での生活から逃げ出したいくなる日々が続きました。しかし時間が経つごとに、高専の環境に慣れ、この環境が気に入っていく自分がいました。それは機械工学の勉強を進めていく内に理解が深まり、勉強するのが楽しくなったことや、高専での友達が増えたことなどで高専の環境が気に入ったのだと思います。特に後者が私の中で大切なことでした。中学から高専に入学する際、私の中学から沼津高専に入学したのは1人で、全く人間関係の無い世界に飛び込んできたことに、とても不安があったからです。5年間過ごして、多くの友人ができ、その中には一生つきあっていきたいと思える友人もできました。そのような友人ができたことへの喜びもありますが、1

から新しい人間関係を築いていけるという自分への自信にもなりました。これからの人生において、新しい環境に身を置く機会は多くあるので、この得られた自信は大切に活かしていきたいです。

私の中で、文武両道を5年間行うことができました。しかし私一人では決してできないことでした。勉学・部活動どちらも周りに人のおかげで充実することができたという自覚があります。勉学では、私はあまり自分の中で頭がいい方ではなかったので授業を聞いていてわからないことが多くありました。そんな時、わからないことは放つたらかしにせず、友人や教員に聞き一つ一つ理解するように努めました。その結果、5年間単位を落とすことなく、自分の納得のいく成績を取ることができました。部活動では、野球部として肉体的にも精神的にも自分を磨くことができました。また共に過ごした野球部の仲間との思い出は私の宝です。公式戦では、勝てることが多くはありませんでしたが、それ以上に私の中で大切なものが残りました。副キャプテンや主将、試合での監督など多くの経験をさせていただきました。

多くの出来事があり、ここだけでは語りきれませんが、高専という環境は自分次第でどれだけでも楽しく、充実させることができる環境だと思います。5年間お世話になった方に感謝を申し上げたいです。

### 最後の1年

電気電子工学科5年 庄司和樹

いよいよ高専生活の幕が閉じられようとしています。自分がもう卒業するなんて、あまり実感がありません。高専生活は5年間あったにもかかわらず、あっという間に過ぎていったという感覚です。入学当初、寮生活で、同じ寮の5年生がとてつもなく遠く、大人に感じたのを

覚えています。そんな先輩と同じ5年生で、もう卒業するということが不思議でたまりません。

1年次は寮で生活していました。同室のルームメイトや同じ階で生活している先輩方、同級生に恵まれ、毎日がとても楽しかったのを覚えています。しかし、寮生活のルールは厳しく、大変だったことも少なくありませんでしたが、寮生活のような厳しい環境は良き友人を生みだしてくれるものなのではないかと思えます。また、私は部活動に積極的に参加していました。部員たちと切磋琢磨し、よく部員同士で意見がぶつかることもありまし

た。しかし、そのたびに立ち止まり、どうすべきかを考える良いきっかけになったのではないかと感じます。

私はやはり部活や友人と遊んだりするのが好きで、勉強するのはあまり好きではありませんでした。普段も授業の復習などはあまりせず、テスト前は焦り、友人に教えてもらったり、教えられるところは教えたり、協力して一夜漬けでテストに挑んでいました。こんなことを続けて、進級を重ねていくにつれて、この学校にいるにもかかわらず、なにもスキルを習得できていないなあという不安が募っていきました。

数年前の卒業生が高専を「ビュッフェ」で例えていましたが、正しくその通りだと感じました。毎日の授業や

学生実験で得られるのは基礎であり、それだけをただ受け身で聞いていても本当の技術や知識は得られません。しかし、その技術や知識を高められる機会は高専にはしっかりとあったのです。そして、その機会は能動的に取り組まなければ、技術や知識は手に入れないものです。部活動や友人と遊ぶことを優先してきた私が、そのことを痛感したのは高専生活5年目でした。しかし、不幸中の幸いとはこのことです。その機会は卒業研究という形で、まだ残っていたのです。私は募った不安を払拭すべく卒業研究に取り組みました。

私と同じような不安を持っている在学生がいるならば、できるだけ早くその機会をつかんでください。

## 父からの言葉

電子制御工学科5年 水溜雄作

「何か決断するとき、今のうちに苦勞するか後で苦勞するか考えて決めなさい。」

この言葉は、私が父から言われた言葉の中で最も印象強く、大切にしてきた言葉です。父から言われた言葉といっても、耳にタコができるほど言われたわけでもなく、会話の中に突然出てきた言葉なので父すらも忘れていたかもしれません。たとえそうだったとしても、私は心に強く響いたこの言葉に出会えてよかったと思っています。

嫌いだった勉強に関しては楽な方へ楽な方へと流れてしまったため、テスト期間が終わっても再試の勉強をしたりと、後で多くの苦勞をしました。

一方、部活や寮生活になどにおいては比較的その時々で苦勞することを意識して時間を送ってきました。なぜそうしてきたのか、それは今から向き合う苦勞がいつか必ず良い形になって自分に返ってくると信じているからです。もちろん、過去に体験した苦勞が全て良い形になって返ってきたわけではないですし、形にならない苦勞も多々ありました。それでも、それらはすべて無駄なことだったと思ったことはありません。形にならなかつたら

別の方法を考えてみればいい、大事なことはそこで終わりにしないで次へ向けてリトライすることだと気付けたからです。

私は在学中に大きな決断を一つしました。それは野球部の監督を引き受けることです。この決断は20年間で最も大きな決断であったと言っても過言ではありません。話を受けた当時、私は四年生の夏休みでした。これから就職活動を控えていることに加え、寮長や学科プロジェクトのプロジェクトリーダーも務めていた背景もあり、こんな状態でまともにこなせるのか？と自問自答を繰り返しました。しかし、考えれば考えるほど無謀なのですが、意外にも覚悟を決めたのはあつという間のことだったと覚えております。また野球に関われる！というのも理由ではあるのですが、なによりもこの言葉が決断を後押ししてくれたことに間違いはありません。

結局、周りの支えもあり、何事も無事に終わることができ、卒業を控えているわけですが、最後に後輩たちに向けて一言送りたいと思います。

「最後に決めるのは自分。ただし決めたことに関しては責任を持って欲しい。」

自分で決めたことなのに途中で放りだしてしまう人をそれぞれの分野で多く見きました。自分で決めたことくらい最後までやり切る、そういう人が増えていくことを期待しています。

## 最後の学生生活を終えて

総合システム工学専攻2年（医療福祉機器開発工学コース）

町田隼大

私が高専に入学してから7年が経ちました。この7年間を振り返ると、とても恵まれた環境で学生生活を送ってきたことを実感します。特に専攻科での2年間は大変多くの方のお世話になりました。

専攻科では1年の後期に4ヶ月間の長期インターンシップがあり、医療機器の第三者認証機関で研修をさせてい

ただきました。医療機器を販売する場合には、医薬品医療機器等法により製品ごとに指定されるJISを満足する必要があります。製品設計には厳しい法規制が課せられています。医療機器の第三者認証機関は、厚生労働省に代わって医療機器の製造・販売に対する審査・認可を行う機関で、人が安心して医療機器を使うために無くてはならない仕事です。私はこの長期インターンシップを通じて、医薬品医療機器等法の概要、認証業務の流れ、医療機器開発企業の認証に対する認識不足、医療機器認証の煩雑さに伴う社会問題（デバイスラグ、輸入超過）等を体的に学習することができ、とても貴重な体験となりました。

また、専攻科研究の活動を通じて様々な経験をすることができました。物質を透過する際に生じる光の位相差を計算することで可視光波長以下の物を可視化することができる複屈折顕微鏡や、どんな形状のものでも造形することができる3Dプリンタなどを使って実験を行ってきました。他にも部品加工のために用いた工作機械、電子ビームを照射することでナノレベルの大きさのものまで見ることができる走査型電子顕微鏡 (SEM) なども使うことができました。一つ一つがとても高価な機械で普通は触れる機会のないものばかりでした。このような機器を使い新しい実験結果が得られる度に研究が進んでい

ることを実感でき、楽しく研究を行うことができました。私がこのような環境で研究を行ってこられたのも多くの先生方や研究室の人たちのおかげです。

最後に、私は高専で7年間過ごすことができよかったですと思います。もし普通高校へ進学していたら、今ほど知識や技術をつけることはできなかったと思います。今後は高専で得られた経験を活かしつつ、「人柄の良い優秀な技術者」を目指していきたいと思います。沼津高専でお世話になった先生方や同級生、後輩のみなさん本当にありがとうございました。

## 私の高専時代



### 分かった積り

電気工学科30期  
大澤友克

私は、電気工学科 (現在の電気電子工学科) 30期の卒業である。高専生だった5年間、水泳部と囲碁将棋部に所属していた。当時は兼部に関してうるさく言われなかったので、夏は水泳部、冬は囲碁将棋部という2足の草鞋を履いていた。小学校6年生までスイミングに通っていたので、水泳部だった階長に誘われて入部した。現在の1年生がどのように感じているかわからないが、一度嫌になって辞めた水泳を再開するほど、階長の存在は大きかった。棟長はさらに大きく、棟長から名前を呼ばれて話しかけられた時には、とても驚いたことを覚えている。高専大会では、豊田高専水泳部の連覇が始まったところだった。打倒豊田を目標にしていたが、大して速いわけでもなく、予選も通過できずに5年間が終わった。そんな自分が着任後に水泳部顧問となり、豊田の連覇を23で止めての優勝に関わることができるとは、夢にも思わなかった。顧問としてというより水泳部OBとして、本当にうれしかった。優勝カップで部員と一緒に回し飲みした味は、今でも忘れられない。

学業では、中学の頃から数学が得意だったが、高専の数学には圧倒された。週に4コマあり、入学してすぐの講義でsin、cos、tanが出てきたときには、何をやっているのか本当に意味が分からなかった。遠藤先生の定期試験で、クラス平均の半分しか取れないこともあった。これはヤバいと思って、2年から3年生の春休みに、必死で1年生の教科書から読み返した記憶がある。1年生の頃、担任から「“微分”とは、微かに分かる、“積分”とは、分かった積りになる」という言葉を聞いてはいたが、読み返す前はまさにそんな感じの理解度だったように思う。最近のカリキュラムは1年生の後期から三角関数を学習するようになるので、やはり数学の先生に、中学からの接続を考えて授業で基礎からしっかり教えてもらえるのは、正直羨ましい。ただ、数学の講義数が減っているのは残念でならない。

現在、本科では電気電子材料と固体電子工学の講義を担当している。講義で意識していることは、学生を「分かった積り」にさせることである。それができれば、「分かる」まで遠くない。そしてどちらの講義も、数学、物理が分からなければ身につかないような内容である。私自身、これらの講義に興味を持って大学進学を選択した。現在の学生の進路は多様化しているが、これらの講義を受けた学生が少しでも電気や物理を深く学びたいと思うような、少しでも「分かった積り」になるような講義をおこないたいと常々思っている。



# 学生の研究活動 (2016.4.1~2017.3.31)

## 総合システム工学専攻

EC：環境エネルギー工学コース AC：新機能材料工学コース MC：医療福祉機器開発工学コース

### 論文発表

(学生が第二著者等であってもすべて記載。賞を受賞している場合は、その名称を発表題名の後に赤字で記載。)

学科・学年	著者名(共著名) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号(年)頁	論文題名	指導教員
C5 M2 M2 C2	○芳野 恭士 芳野 広起 北村 紀人 後藤 竜 石田 友海	沼津高専研究報告、51号(2017) 43-46	健康茶の抗酸化作用	芳野 恭士

### 講演発表

(登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文集が4頁程度であっても講演発表に含める。賞を受賞している場合は、その名称を発表題名の後に赤字で記載。)

#### 第65回高分子学大会／神戸国際会議場／2016.5.26

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC1	松島 弘貴	コレステロール置換ヒアルロン酸粒子の合成と機能 (山根説子、大沼清、澤田晋一、佐々木善浩、秋吉一成)	山根 説子

#### ROBOMECH2016 in yokohama/ パシフィコ横浜／2016.6.9-10

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC1	赤池 郁也	超音波診断・治療補助ロボットReDATによる力制御のための検査者意図推定(瀬戸翔太、五十嵐雄介、田中優斗、青木悠祐)	青木 悠祐
MC1	大山 拓真	超音波診断支援システムのための3次元追従ビジュアルフィードバック系の構築(赤池郁也、佐野徳美、青木悠祐)	青木 悠祐
MC1	吉村 大地	橋梁調査・点検ロボットによる橋梁下面撮像・再構成システムの構築(大山拓真、田中優斗、青木悠祐)	青木 悠祐

#### 日本高専学会第22回年会・講演会/ 沼津工業高等専門学校／2016.8.27-28

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
M5	鈴木 洋行	空気圧用消音器の流量特性	村松 久巳
M5	中澤 優仁	超小型モビリティの安定性向上のための制御手法の検討	三谷 祐一朗
M5	森川 拓磨	小型磁気浮上装置における動特性の検証および活用方法の検討	三谷 祐一朗
M5	田中 椋祐	四大失明原因疾患診断システムにおける動的眼球運動計測の基礎的研究(鈴木尚人)	鈴木 尚人
M5	平田 朋樹	導通検出を用いた非円形歯車対の挙動観察(平田、山中)	山中 仁

EC1	鍋倉 大貴	デジタル画像相関法によるCFRP積層板のパンチ加工損傷評価の試み(松田伸也、小林隆志)	松田 伸也
M5	駒谷 拓己	浮力噴流におけるノズル内部への特異流入現象に関する研究	前田 篤志
E5	横山 雄大	核融合プラズマと対向壁間における荷電交換水素原子の輸送シミュレーション(岸田賢人、西村賢治)	西村 賢治
E5	佐藤 慶	軟X線イオナイザを用いた放射線教育コンテンツの開発(鈴木英明、大津孝佳)	大津 孝佳
E5	秋山 穂本 多由佳 矢幅 達也 小池 菜友 小泉 理佳	食育支援ロボットの開発 ～～食物の色から生きる為の知恵を学ぶ～～ <b>活動奨励賞</b>	大津 孝佳
E5	山竹 慧祐 井上 進愛 土井 公一朗 渡邊 晴樹	多重インバータのVFM制御(高野明夫)	高野 明夫
EC1	清水 皓陽	昇圧チョッパを併用したVFMインバータの開発(高野明夫)	高野 明夫
EC2	中村 啓輔	大気圧プラズマの磁界制御によるイオンバランスのコントロール(藤田真太郎、大津孝佳)	大津 孝佳
EC1	大石 晋平	静電気放電によるロボットの誤動作に関する研究(田代治己、萩原隆義、大津孝佳)	大津 孝佳
EC1	荻島 規宏	モノポールアンテナと光電界センサの周波数特性の比較(尾原航平、大津孝佳)	大津 孝佳
AC1	土屋 歩	光照射による自己組織化ナノ構造制御(小村元憲)	小村 元憲
EC2	山内 佑哉	画像処理による人追尾ロボットの開発	牛丸 真司
MC2	大川 小鉄	同期復調のためのMAP推定を利用した初期値推定法の提案	長澤 正氏

EC1	廣瀬圭佑	トマト蒸散流計測センサ校正方法の検討	長澤正氏
D5	飯田峻也	画像処理によるパッチクラスタリング用マイクロモニタの制御	小谷進
D5	鍵山純一	シカ及びイノシシはどこで頻りに出没するのか—沼津市を例にして—(鍵山純一、太田裕斗、部谷和輝、鈴木静男)	鈴木静男
D5	山田怜央	森林バイオマスエネルギーを持続的に活用するための評価—沼津市を例にして—(山田怜央、伊藤凌、鈴木静男)	鈴木静男
MC2 D5	山田知史 鈴木莉子	単一の赤外線センサによる光源追従ロボットの開発	川上誠
D5 D5	近藤有 吉岡昂哲	ロボカップジュニアサッカー競技における教材開発	川上誠
D5	河合将和	永久磁石同期モータにおける位置センサレス制御の抵抗変動に対する高ロバスト化(大沼巧)	大沼巧
D5	山本拓也	永久磁石同期モータの電圧飽和時における最大トルク応答制御(大沼巧)	大沼巧
EC1	望月勇杜	永久磁石同期モータにおける位置センサレス制御時のインダクタンス変動に対する高ロバスト化(大沼巧)	大沼巧
EC1	太田和希	永久磁石同期モータにおける最大トルク制御座標系の位相角決定法の検討(岩田大輝、大沼巧)	大沼巧
MC2	牛山健太	熱流体計測センサの周波数特性の性能向上に関する研究(大庭勝久)	大庭勝久
研究生	西留直人	工学教育支援を目的とした「振り」教材の開発(眞野千輝、大庭勝久)	大庭勝久
D5	三室菜美	熱流体用温度センサの特性検定の高精度化に関する検討(大庭勝久) <b>優秀ポスター受賞</b>	大庭勝久
EC1	藤原秀平	打音診断システムの開発に関する研究	鄭萬溶
EC1	萩原実可子	Webカメラを用いた交通流計測システムの開発	鄭萬溶
D5	遠藤真哉	フィールドフィルタリングを目的とした橋梁調査ロボットシステムの構築(赤池郁也、大山拓真、吉村大地、青木悠祐)	青木悠祐
MC2	瀬戸翔太	ロボットによる超音波診断支援のための検査者意図推定(大石征裕、青木悠祐)	青木悠祐
D5	高橋元太	遠隔力覚転送のための双腕テレオペロボットの開発(青木悠祐) <b>優秀ポスター受賞</b>	青木悠祐
MC1	堀部敬史	ヒートベッド温度制御システムの構築(渡邊武大、大林千尋)	大林千尋
MC2	遠藤拓夢	大脳聴覚野における神経ダイナミクスの数理モデル研究	宮下真信

AC2	鈴木佑季	水素化マグネシウム加水分解に対する添加物の効果(藁科知之) <b>最優秀ポスター賞</b>	藁科知之
MC2 C5	伊藤彩 芳野広起	二次加工茶「香煎茶」の保健作用(窪田巧輝、塩川阿子香、清水篤、芳野恭士)	芳野恭士
C5	山下遥捺	サラシアの皮膚老化抑制作用(芳野恭士、小關元気、芳野文香、池谷綾乃、金高隆)	芳野恭士
C5 C5 C5	高橋駿平 芳野広起 齋藤日向	沼津市内農業用溜池「門池」の水環境(竹口昌之、松本祐子、芳野恭士)	芳野恭士
AC1	河合希	カラムクロマトグラフィーを用いたブルーギル肝システインスルフィン酸デカルボキシラーゼの精製条件の検討	後藤孝信
AC2	渡辺彩夏	でん粉粕からのカルボキシメチルセルロース合成とタンパク質回収への利用	竹口昌之
AC1	松島弘貴	コレステロール置換ヒアルロン酸粒子の合成と機能(山根説子、大川政志、大沼清、澤田晋一、佐々木善浩、秋吉一成)	山根説子
AC1	小泉舞衣	代謝経路解明ツールとしてのチャ( <i>Camellia sinensis</i> )の形質転換への挑戦(榎本耀太、山木海人、古川一実)	古川一実

### 第21回知能メカトロニクスワークショップ講演会/ 公立はこだてみらい大学/2016.8.28

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
S5	小池志歩	画像処理に基づく患者の状態監視支援システムの開発(吉田幹矢)	藤尾三紀夫
S5	櫻庭拓海	予測補正制御に基づく高速高精度な多軸加工システムの開発—ダイレクト5軸加工制御システムの構築—(田中優斗)	藤尾三紀夫

### 電気学会東京支部 第7回学生研究発表会/ 慶応義塾大学矢上キャンパス/2016.8.29

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC1	清水皓陽	昇圧チョッパを併用したVFMインバータ	高野明夫

### 電気学会産業応用部門大会/群馬大学/2016.8.30-9.1

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC2	岩田大輝	磁気飽和特性の一次近似による最大トルク制御座標系の位相補償(太田和希、大沼巧)	大沼巧
EC1	太田和希	磁気飽和を考慮した最大トルク制御座標系の位相角決定法の検討(岩田大輝、大沼巧)	大沼巧

第47回電気電子絶縁材料システムシンポジウム/  
岐阜大学サテライトキャンパス/2016.9.1

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC1	佐野友里花	フィルム表面の傷が低密度ポリエチレンの高電界誘電特性に及ぼす影響	遠山和之

日本動物学会中部支部大会/静岡大学/2016.9.11

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
E3	小池 菜友花	3Dブロックと色認識ロボットによる食育コンテンツの開発 <b>優秀賞</b>	大津孝佳
E3	小泉 理佳		
E4	矢幅 達也		
E1	阿形 明音		
E1	桑田 一穂		
E1	稲葉 風		
E1	貝嶋 志斗		
E1	加藤 亮大		
E1	杉山 結紀		
E1	高野 舞		
E1	望月万里衣		
M1	小澤 空		
E2	岡水 楓人		
E3	園田 歩美		
E3	山下 美穂		
E5	秋山 奈穂		
E5	本多 由佳		

Asia-Pacific Conference on Fracture and Strength 2016/Toyama International Convention Center, Toyama, Japan/2016.9.20

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC2	村松 星彦	Compressive strength and fractography of CFRP laminates after piercing process by punch press (Shinya Matsuda, Shigeki Yashiro, Keiji Ogi)	松田伸也
EC2	中田 豪	Ring crack initiation characteristics of silicon nitride ceramic ball after thermal shock (Shinya Matsuda)	松田伸也

公益社団法人 日本農芸化学会 中部支部 第177回 例会/  
名古屋大学/2016.9.24

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC2	鈴木 裕貴	<i>Geobacillus</i> sp. NTS46株由来ペーパースラッジ糖化酵素の精製とその性質	竹口昌之

静電気学会全国大会/群馬大学/2016.9.29-30

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC1	大石 晋平	導電性複合材料の帯電特性と放電特性に関する研究(大津孝佳、田代治己、藤田真太郎、三谷卓矢)	大津孝佳
EC1	荻島 規宏	光電界センサによる放電現象のタイムドメイン測定(大津孝佳、田代治己、尾原航平、大澤隆二) <b>エクセレントプレゼンテーションアワード</b>	大津孝佳

6th ISTS (International Symposium on Technology for Sustainability)/Vocational College, Universitas Gadjah Mada, Yogyakarta, Indonesia/2016.10.5-6

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC1	藤原 秀平 Shuhei FUJIWARA	Development of Tapping Sound Diagnosis System; Position Estimation of Defects in a Cantilever	鄭 萬溶 ManYong JEONG

第7回日本ジオパーク全国大会日本ジオパーク伊豆半島大会小中高生ポスターセッション/  
プラサヴェルデ(沼津市)/2016.10.10

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
M2 M2 E2 E1 E1 E1 C1 E1 E1 E1 C1 E1 M1 C1	鈴木 和馬 石川由輝斗 岡水 楓人 稲葉 風 貝嶋 志斗 金子 直樹 阿形 明音 杉山 結紀 高野 舞 望月万里衣 桑田 一穂 加藤 亮大 小澤 空 佐藤 智晴	沼津の地域特性を活かした産学官連携による「深海プロジェクト活動」 ～～「海」と拓く地域の未来～～	大津孝佳
D5	鍵山 純一	どのような植生や土地利用形態でシカやイノシシは出没するのか—沼津市における予備的調査—(鍵山純一、太田裕斗、部谷和輝、鈴木静男)	鈴木静男
D5	山田 怜央	森林バイオマスエネルギーの持続的活用にむけて(山田怜央、伊藤 凌、鈴木静男)	鈴木静男
D5	勝又 隆博	竹林はどれだけ拡大しているのか?(勝又隆博、鈴木静男)	鈴木静男
D5	勝又 隆博	千本浜のクロマツ林面積は数十年間にどのように変化したか(加藤輝一、勝又隆博、鈴木静男) <b>最優秀賞</b>	鈴木静男
M2 D2 S2	貴田 尊士 四之宮魁杜 井関 雄大	三島競馬場痕跡探訪	長澤 正氏
C2	大林 蓮 小野田 寛 加藤 穂香	放置竹林から資源を!タケからバイオエタノールをつくる	竹口昌之

IEEE Conference on Electrical Insulation and Dielectric Phenomena/Chelsea Hotel Toronto (Ontario, CANADA)/2016.10.19

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC1	佐野友里花 Yurika Sano	High Field Dielectric Properties of Low Density Polyethylene with Rough Abrasive Surface Under AC Ramp Electric Field Application <b>Student Stipend Award</b>	遠山和之 Kazuyuki Tohyama

日本機械学会 山梨講演会2016／山梨大学工学部／  
2016.10.22

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC2	池田 颯	透過型レーザー変位計を用いた高温時のガasketの変形特性測定(小林隆志)	小林隆志
EC2	古田泰大	引張りと曲げの複合荷重が作用する配管フランジ締結体の密封特性(小林隆志)	小林隆志
M5	後藤 柗吾	PTFE系ガasketを用いたフランジ締結体の微少漏えい特性(小林隆志、村松晃、佐藤広嗣)	小林隆志

JAXA第13回宇宙環境シンポジウム／  
情報通信研究機構／2016.11.1-2

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC2	中村啓輔	宇宙空間放電における微細デブリの加速現象(大津孝佳)	大津孝佳
EC1	大石晋平	大気圧プラズマ照射による制電材料の帯電・放電特性(大津孝佳、鷲坂功一)	大津孝佳

第23回電気学会東京支部沼津・山梨支所研究発表会／  
東芝キャリア／2016.11.2

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC2	大川 小鉄	同期復調のためのMAP推定を利用した初期値推定法の提案	長澤 正氏

第59回自動制御連合講演会／北九州国際会議場／  
2016.11.10-12

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC2	瀬戸 翔太	超音波診断・治療補助ロボットReDATによる検査者意図推定に基づく協調動作(大石征裕、青木悠祐)	青木悠祐
MC1	大山 拓真	超音波診断支援システムにおける体動補償を目的とした断層像処理システムの構築(青木悠祐)	青木悠祐
MC1	吉村 大地	生体信号解析に基づいた超音波診断におけるプロープ走査時の検査者の意図推定(高橋元太、青木悠祐)	青木悠祐
MC1	赤池 郁也	超音波診断におけるメンタルローテーション能力計測のための変換行列の決定(青木悠祐)	青木悠祐

公益社団法人日本化学会 CSJ化学フェスタ／  
タワーホール船堀 (東京)／2016.11.15

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC2	伊藤 俊治	バガス酵素糖化における馬鈴薯でん粉工場廃水からの反応促進物質の探索	竹口 昌之
AC2	鈴木 佑季	水素化マグネシウム加水分解反応に対する金属塩添加効果(藁科知之)	藁科知之

日本育種学会中部談話会／農研機構 野菜花き研究部門  
(津市)／2016.11.19

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
C5 C5	北村 風花 折原 玲美	チャ育種のためのツバキ種間雑種の成分分析及び細胞遺伝学的特徴(太田智也、中尾真之、古川一実) 優秀ポスター受賞	古川 一実
C5	山木 海人	チャ形質転換のための4種の毛状根形成アグロバクテリアの評価(折原玲美、古川一実)	古川 一実

日本動物学会第87回沖縄大会／沖縄タイムスビル／  
2016.11.19

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
E3 E3 E4 E1 E1 E1 E1 E1 E1 E1 E1 E1 E1 E1 M1 C1 E2 E3 E3 E5 E5	小池 菜友 小泉 理佳 矢幅 達也 阿形 明音 桑田 一穂 稲葉 風斗 貝嶋 志斗 加藤 亮大 杉山 結紀 高野 舞 望月 万里衣 小澤 空 佐藤 智晴 岡水 楓人 園田 歩美 山下 美穂 秋山 奈穂 本多 由佳	3Dブロックロボットによる食育と創造教育の実践 優秀賞	大津 孝佳

第21回静岡健康・長寿学術フォーラム／  
静岡グランシップ／2016.11.25

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
E3 E3 E3 E3 E2 C1 C1 E1 E1 E1 E1 E1 E1 M1 C1	小池 菜友 小泉 理佳 園田 歩美 山下 美穂 岡水 楓人 阿形 明音 桑田 一穂 稲葉 風斗 貝嶋 志斗 加藤 亮大 杉山 結紀 高野 舞 望月 万里衣 小澤 空 佐藤 智晴	3Dブロックと色認識ロボットによる食育コンテンツの開発	大津 孝佳
C5 C5	芳野 広起 高橋 駿平	Determination of health beneficial components in some plant extracts using DART TOF/MS(芳野恭士、押川達夫)	芳野 恭士
MC2 C5	伊藤 彩 芳野 広起	Health beneficial effects of Kosencha: a secondary processed tea (窪田巧輝、塩川阿子香、清水 篤、芳野恭士)	芳野 恭士

2016年度精密工学会中国四国支部山口地方学術講演会/  
大島商船高専/2016.11.26

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
S5	池神奈穂美	多軸制御に基づくオンマシンドレッシングシステムの開発	藤尾三紀夫

日本電子部品信頼性センタESDシンポジウム/  
大田区産業プラザ/2016.11.29-30

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC1	大石 晋平	導電性複合材料の帯電特性と放電特性に関する研究(大津孝佳、田代治己、藤田真太郎)	大津孝佳
EC1	荻島 規宏	光電界センサによる放電現象のタイムドメイン測定(大津孝佳、田代治己、尾原航平、大澤隆二)	大津孝佳
EC1	大石 晋平	静電気放電によるロボットの誤動作に関する研究(大津孝佳、堂山英之、長崎祐亮、宮内広海、片岡俊二、池田怜太郎、五十嵐翔) <b>奨励賞</b>	大津孝佳

富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2016/  
ふじさんめっせ/2016.12.2

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC2	山田 知史	強化学習によるサッカーロボットの制御	川上 誠
D5 D5 D5	近藤 有 鈴木 莉子 吉岡 昂哲	TJ3Bを用いたロボット教材開発 <b>制御・情報分野 最優秀賞</b>	川上 誠
D5	大石 征裕	超音波診断・治療補助ロボットReDATによる検査者負担軽減のための意図推定(瀬戸翔太、青木悠祐)	青木悠祐
AC2	鈴木 裕貴	<i>Geobacillus</i> sp. NTS46株由来ペーパスラッジ糖化酵素の性質とその利用	竹口昌之
AC2	鈴木 佑季	水素化マグネシウム加水分解反応に対する金属塩添加効果(藁科知之)	藁科知之
MC2	伊藤 彩	2次加工茶「香煎茶」の成分分画と保健作用(清水篤、芳野恭士)	芳野恭士

文部科学省原子力人材育成事業等推進事業フォーラム/  
日本教育会館/2016.12.10

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
E5	川合 智士	原子力人材育成事業活動成果報告(西村賢治)	西村賢治

The Society for Bioacoustic/伊良湖(国際会議)/  
2016.12.10-11

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC2	遠藤 拓夢	A computational study of neural dynamics in the auditory cortex for the generation of auditory continuity illusion	宮下真信

平成28年度高専連携教育研究プロジェクト進捗状況報告会/  
豊橋技術科学大学/2016.12.27

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC1	佐野友里花	高分子絶縁材料の交流高電界下での空間電荷の推定法の検討	遠山和之

国際会議STI-Gigaku 2017/長岡技術科学大学/  
2017.1.5

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC1	松島 弘貴	Synthesis and Characterization of Cholesterol-bearing Hyaluronic Acid Particles (Sestuko YAMANE, Kiyoshi OHNUMA, Shin-ichi SAWADA, Yoshihiro SASAKI, Kazunari AKIYOSHI)	山根説子

第22回 高専シンポジウム in Mie/鳥羽商船高専/  
2017.1.28

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
E5	岩田 将輝	集積型光アイソレータ実現のための薄膜形成条件の検討	野毛 悟
E5	濱家 千尋	太陽電池応用を目指したSnS膜作製と特性評価	野毛 悟
E5	本多 由佳	機能性石英ガラスの特性向上と安定化	野毛 悟
E5	山田 峻	AZO系透明導電膜の作製と評価	野毛 悟
MC2	山田 知史	強化学習によるサッカーロボットの制御	川上 誠
D5 D5 D5	鈴木 莉子 近藤 有 吉岡 昂哲	TJ3を用いたロボット教材開発	川上 誠
S5	池神奈穂美	多軸制御に基づくオンマシンドレッシングシステムの開発	藤尾三紀夫
S5	長島 弘昂	患者の動向監視支援システムの開発—システムの構築—	藤尾三紀夫
S5	小池 志歩	患者の動向監視支援システムの開発—尿意の検知—	藤尾三紀夫
S5	篠崎 優希	患者の動向監視支援システムの開発—ベッド柵の検出—	藤尾三紀夫
C5	齋藤 日向	セルロースナノファイバーの代謝症候群予防作用(竹口昌之、芳野恭士)	芳野恭士
C5	高橋 駿平	アカザカズラの葉エキス中の保健成分に関する研究(丸山浩司、嘉島康二、芳野恭士)	芳野恭士
C5	山下 遥捺	エラスチン変性に対するサラシアの抑制作用(金高隆、芳野恭士)	芳野恭士
C5	芳野 広起	香煎茶の糖尿病予防作用(清水 篤、芳野恭士)	芳野恭士
MC2	伊藤 彩	2次加工茶「香煎茶」の成分分画と保健作用(清水篤、芳野恭士)	芳野恭士



平成28年度電子情報通学会東海支部卒業研究発表会／  
名古屋大学／2017.3.3

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
E5	岩田将輝	集積型光アイソレータ実現のための薄膜形成条件の検討	野毛 悟
E5	庄司和樹	マルチバンドプロジェクターを用いた色覚特性の評価	高矢昌紀

公益社団法人 化学工学会 第19回化学工学会学生発表会／  
東京農工大学／2017.3.4

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC2	根原朋希	<i>Trichoderma</i> 属接種によるトマトの生育促進効果	竹口昌之

日本材料学会東海支部第11回学術講演会／  
名古屋大学環境総合館／2017.3.6

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC2	村松星彦	パンチプレス加工後のCFRP積層板の有孔圧縮強度に及ぼす加工品位の影響(松田伸也、矢代茂樹、黄木景二)	松田伸也
EC2	中田 豪	熱履歴を受けたセラミック軸受球のリングクラック発生強度特性(松田伸也)	松田伸也
M5	岩瀬涼太	デジタル画像相関法によるCFRP積層板のパンチプレス加工中におけるひずみ分布解析(松田伸也)	松田伸也

日本機械学会東海支部第48回学生会卒業研究発表講演会／  
静岡大学浜松キャンパス／2017.3.13

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
D5	三室菜美	抵抗線温度計の周波数応答評価の自動化(大庭勝久)	大庭勝久

第24回精密工学会卒業研究発表講演会／  
慶應義塾大学矢上キャンパス／2017.3.13

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
S5	小池志歩	患者の動向監視支援システムの開発—寝返りの検出—	藤尾三紀夫
S5	篠崎優希	患者の動向監視支援システムの開発—ベッド柵の取り外し検出—	藤尾三紀夫
S5	櫻庭拓海	予測補正制御に基づく高速高精度な多軸加工システムの開発—形状補間の3軸での検証—	藤尾三紀夫

日本機械学会東海支部第66期総会・講演会／  
静岡大学浜松キャンパス／2017.3.14-15

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
D5	加藤正純	組み込みデバイスを用いた抵抗線温度計の出力特性の改善(大庭勝久)	大庭勝久

2017年度精密工学会春季大会学術講演会／  
慶應義塾大学矢上キャンパス／2017.3.15

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
S5	池神奈穂美	ファイバーブラシの5軸制御に基づく磨き加工用CAMシステムの開発—基礎実験について—	藤尾三紀夫
S5	長島弘昂	患者の動向監視支援システムの開発—基本システムの構築—	藤尾三紀夫

電気学会全国大会／富山大学／2017.3.15-17

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
D5	河合将和	拡張誘起電圧モデルに基づく位置センサレス制御の抵抗誤差による位置推定誤差を基準とした信号電流自動調整法(大沼 巧)	大沼 巧
D5	山本拓也	最大トルク制御座標系における弱め磁束制御を用いたIPMSMの高出力化(岩田大輝、大沼 巧)	大沼 巧

2017年電子情報通信学会総合大会／名城大学／  
2017.3.22-25

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
E5	岩田将輝	集積型光アイソレータ実現のための薄膜形成条件の検討	野毛 悟
MC2	大川小鉄	流星バースト通信路上で生じる偏波面の変化の観測	長澤正氏

日本育種学会第131回講演会／名古屋大学／2017.3.30

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
C5 C5 C5	北村風花 遠藤大輔 折原玲美	茶樹および近縁種のカフェイン合成経路に基づいた染色体比較(荻野暁子、古川一実)	古川一実



# 平成28年度卒業生・修了生進路先一覧

平成28年12月22日現在

## 機械工学科

36名

### 就職先企業

23名

株式会社 資生堂	1
アステラス ファーマ テック株式会社	1
JXエンジニアリング株式会社	1
日揮プラントイノベーション株式会社	1
THKインテックス 株式会社	1
新日鐵住金株式会社	1
株式会社 小松製作所	1
三井造船株式会社	1
小野薬品工業株式会社フジヤマ工場	1
オークマ株式会社	1
三菱重工工業株式会社	1
コンチネンタル・オートモーティブ株式会社	1
シブヤ精機株式会社	1
東芝機械株式会社	1
いすゞエンジニアリング株式会社	1
ソニーエンジニアリング株式会社	1

川崎重工工業株式会社	1
株式会社富士通ゼネラル	1
出光興産株式会社	1
株式会社小林製作所	1
浜松ホトニクス株式会社	1
株式会社ジーシー	1
株式会社JALエンジニアリング	1

### 進学（編入学）先大学等

13名

東北大学工学部	1
群馬大学理工学部	1
千葉大学工学部	1
東京大学工学部	1
静岡大学工学部	1
豊橋技術科学大学工学部	2
三重大学工学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	3
進学希望	2

## 電気電子工学科

39名

### 就職先企業

19名

ソニーエンジニアリング株式会社	1
株式会社JPハイテック	1
株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー	1
株式会社NHKメディアテクノロジー	1
ヤマハモーターエンジニアリング株式会社	1
矢崎総業株式会社	1
富士フイルムメディカル株式会社	1
株式会社JALエンジニアリング	1
浜松ホトニクス株式会社	2
富士乳業株式会社	1
小野薬品工業株式会社	1
独立行政法人国立印刷局	1
東レ株式会社	1
東京ガス株式会社	1
アステラス ファーマ テック株式会社	1

株式会社ヤクルト本社	1
KDDIエンジニアリング株式会社	1
日本電設工業株式会社	1

### 進学（編入学）先大学等

20名

室蘭工業大学工学部	1
福島大学共生システム理工学類	1
千葉大学工学部	2
東京農工大学工学部	4
横浜国立大学理工学部	1
山梨大学工学部	1
静岡大学工学部	1
名古屋大学工学部	1
豊橋技術科学大学工学部	2
沼津工業高等専門学校専攻科	5
進学希望	1

## 電子制御工学科

31名

### 就職先企業

18名

ソニーエンジニアリング株式会社	1
株式会社 アイエイアイ	1
AMECコンサルティング株式会社	1
東洋エンジニアリング株式会社	1
武田テバファーマ株式会社	1
日本ATM株式会社	1
ニフティ株式会社	1
株式会社日立ビルシステム	1
横浜ゴム株式会社	1
浜松ホトニクス株式会社	1

株式会社フリーダム	1
東海旅客鉄道株式会社（JR東海）	1
DMG森精機株式会社	1
宇宙航空研究開発機構（JAXA）	1
三菱日立パワーシステムズ株式会社	1
ジャパン マリンユナイテッド株式会社 津事業所	1
東芝キャリア株式会社	1
自衛隊	1

### 進学（編入学）先大学等

13名

東京農工大学工学部	1
お茶の水女子大学理学部	1

豊橋技術科学大学工学部	2
首都大学東京システムデザイン学部	1

沼津工業高等専門学校専攻科	6
進学希望	2

## 制御情報工学科 49名

### 就職先企業 20名

株式会社システムシェアード	1
森永乳業株式会社	1
フジテック株式会社	1
株式会社ロッテ	1
矢崎総業株式会社	1
富士テクノサービス株式会社	1
東芝テック画像情報システム株式会社	1
株式会社テクノサイト	1
株式会社日立情報通信エンジニアリング	1
シチズン電子株式会社	1
ヤマハ株式会社	1
コーンズテクノロジー株式会社	1
株式会社プレシード	1
東京ガス株式会社	1
アステラスファーマテック株式会社	1
富士ゼロックス静岡株式会社	1
横浜ゴム株式会社	1
株式会社ヤクルト本社	1
ファナック株式会社	1
株式会社マイスターエンジニアリング	1

## 進学（編入学）先大学等 27名

室蘭工業大学工学部	1
筑波大学理工学群	1
千葉大学工学部	1
東京農工大学工学部	3
横浜国立大学理工学部	1
新潟大学工学部	1
長岡技術科学大学工学部	1
信州大学工学部	1
金沢大学理工学域	1
福井大学工学部	1
静岡大学情報学部	2
名古屋工業大学工学部	1
豊橋技術科学大学工学部	2
京都大学工学部	1
大阪大学基礎工学部	1
奈良女子大学生生活環境学部	1
首都大学東京都市教養学部	1
首都大学東京システムデザイン学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	5

## その他 2名

浅野工学専門学校	1
東京工科自動車大学校	1

## 物質工学科 42名

### 就職先企業 12名

株式会社LIXILグループ	1
株式会社ヤクルト本社	1
ケイ・アイ化成株式会社	1
花王株式会社	1
日東電工株式会社	1
イハラニッケイ化学工業株式会社	1
Meiji Seika ファルマ株式会社	1
アステラスファーマテック株式会社	2
第一三共ケミカルファーマ株式会社	1
南部化成株式会社	1
株式会社ジーシーデンタルプロダクツ	1

## 進学（編入学）先大学等 30名

東北大学理学部	1
---------	---

筑波大学理工学群	2
筑波大学生命環境学群	2
東京農工大学工学部	2
東京工業大学生命理工学部	1
横浜国立大学理工学部	1
長岡技術科学大学工学部	1
岐阜大学応用生物科学部	1
豊橋技術科学大学工学部	1
大阪大学工学部	1
神戸大学理学部	1
奈良女子大学理学部	1
広島大学生物生産部	2
愛媛大学農学部	1
豊田工業大学工学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	10
進学希望	1

## 総合システム工学専攻

### 環境エネルギー工学コース 8名

#### 就職先企業 3名

三菱化学エンジニアリング株式会社	1
株式会社 明電舎	1
株式会社フリーダム	1

## 進学先等 5名

長岡技術科学大学大学院 工学研究科	1
名古屋大学大学院 工学研究科	1
北陸先端科学技術大学院大学 物質化学領域	1
京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科	1
慶應義塾大学大学院 理工学研究科	1

**新機能材料工学コース**

5名

**就職先企業**

3名

東燃ゼネラル石油株式会社	1
矢崎総業株式会社	1
株式会社J-オイルミルズ	1

**進学先等**

2名

東京工業大学 物質理工学院（修士課程）	1
進学希望	1

**医療福祉機器開発工学コース**

11名

**就職先企業**

7名

ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社	2
朝日電装株式会社	1
チームラボ株式会社	1
株式会社日立ハイテクフィールドディング	1
クノール食品株式会社	1
NEC ネットエスアイ株式会社	1

**進学先等**

4名

筑波大学大学院 システム情報工学研究科	1
東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科	1
奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科	1
防衛大学校 理工学研究科	1



## 教育後援会から

### 「考え方」こそが人生を決め、 運命を変える

教育後援会会長 河合 隆 徳

沼津高専での所定の課程をすべて修了し、晴れて卒業を迎えられる皆様、そして常に見守り続けて来られた保護者の皆様、ご卒業誠におめでとうございます。

また、学生の一人ひとりにまで熱心に御指導をいただいた校長先生をはじめとする諸先生方、並びに陰で支えて下さった職員の皆様、このように立派に育てていただきました。保護者を代表して衷心より御礼申し上げます。本当に有難うございました。

さて、卒業生の皆様は5年間、専攻科まで学ばれた方は7年間の長きに亘り、貴重な青春時代をこの沼津で過ごされ、社会の荒波に繰り出す人、更に勉学に励むべき進学を志す人と、それぞれの進む道は異なっていると思いますが、これから繰り広げられる人生のお供に、最後にもう1つ是非覚えておいて欲しい公式があります。

人生・仕事の結果＝考え方×熱意×能力

これは私の師匠からの受け売りです。すべてが足し算じゃなくて、掛け算であることがミソです。ですから結果がゼロになったり、最悪マイナスということも起きてきま

す。先ず沼津高専を卒業される皆様の能力は卒業証書でお墨付きです。次に熱意ですが、これはゼロから100まであるものの、今まさに大海に飛び立たんとしている皆様はこれはかなり高得点ですね。問題は考え方です。考え方はマイナス100からプラス100まであって、ここで言う考え方とは「人として正しいかどうか」というのが唯一の基準です。ダイナマイトを発明したアルフレッド・ノーベルはダイナマイトを間違った考えで使われてしまった後悔から、遺言でノーベル賞を設立しました。せっかくの発明もマイナスの考え方では能力が有れば有るだけ、熱意が高ければ高い程悲惨なことになってしまうわけです。また皆様よりも能力に劣る人達が、人として正しいかどうかという観点を遵守して、皆様よりも一生懸命頑張ると、能力に恵まれた皆様が敵わないということも大いに起こってきます。この先どんな強敵が目の前に現れても、沼津高専の名にかけて諦めずに頑張ってください。能力は才能と言ひ換えられたりしますが、「才に使われるな」「才子、才に倒れる」とも言われます。才能のある皆様だからこそ、才能に溺れず、人として正しい考え方で、謙虚に、そして溢れるばかりの熱意で努力していただければ、輝かしい人生を送れることは間違いないと思います。

皆様の前途に幸多かれと祈っております。

## 同窓会から

### 同窓会へようこそ（同窓会50周年）

同窓会会長（機械工学科6期） 木戸 実

1962年（昭和37年）に高専が設立されてから55年、その5年後の1967年（昭和42年）に高専から初めて卒業生が世に出てから50年目の年となりました。この半世紀の間に沼津高専からは9000名を超える卒業生が生まれ、様々な分野の職場で活躍しているところです。

本校同窓会もこの50周年を機会に、高専卒業生の50年間を見つめ直し、過去を振り返り未来を考える、50周年記念事業を計画しています。記念講演やパネルディスカッション、懇親会などの式典の開催 高専祭の中で同窓会ブースを設けての展示や在学生・保護者・卒業生・一般来校者間での交流 学校・在校生へ何らかの記念寄贈など、広くアイデアを募集して実施検討を進めているところです。この記念事業を多くの卒業生へ、そのみならず一般世間にも「社会の中の高専の50年」を少しでも再認識していただけるよう、50周年記念事業の新聞広告なども考えているところです。

全国の大学卒業生の数は年間およそ60万人、短大卒業生は年間およそ6万人、専門学校の卒業生数は年間で20数万人です。高専卒業生は遥かに少ない年間およそ1万人程度です。高専卒業生と言う括りだけでもかなりの特徴を持った存在と言えます。その中で沼津高専の同窓で

育った本校同窓生が9千名となっていることが、同窓会の原点となっています。

本校同窓会の今までの50年間は、組織維持のための活動（同窓会員名簿づくりと総会などの開催）を中心にして、学校・在校生への支援（金銭面での援助など）も加えて運営してきました。この50年間をベースにしながら、9千名超のネットワークとしての新たな展開に発展していくことを願っています。

昨年度から始めた「小さな同窓会支援」の制度利用が最近徐々に増えてきました。同窓生10名以上参加のイベント（クラス会、クラブOB会など何でも）に1万円、21名以上で2万円の助成支給を行うものです。この開催結果報告（写真、コメントなど）を同窓会HPに掲載することで、少しでも草の根活動に役立てばと創設しました。これはほんの一例として同窓会組織が同窓生に何らかのメリットがもたらせるものであるよう、同窓生の皆様と共に考えていきたいと思えます。同窓会へ参画、また50周年記念事業への参加を心よりお待ちしております。

（同窓会HP <http://www.nct-dsk.com>）



## お知らせ

### ニュージーランドNzlc語学研修&異文化体験の実施について

毎年恒例の語学研修&異文化体験の研修先が変わることになりました。シアトルに研修先を移して6年間にわたり学生たちを派遣してきましたが、年々費用が上がってきており、その影響を受けて参加する学生が減っていました。そこで国際交流室では研修先を見直して、より多くの学生が参加できる新たなプログラムを企画しました。来年度からの研修先はニュージーランドのオークランドにあるNzlcになります。Nzlcはニュージーランド屈指の語学学校であるとともに自然環境に恵まれていることから、研修中には英語を勉強しながらさまざまな異文化体験ができます。

研修期間は昨年度に比べますと1週間長い3週間となりますが、費用は40万円以下に抑えられ、10万円以上を下げることができました。

来年度は多くの学生たちが参加し、グローバル人材に求められる英語力と素養を身につけてほしいとスタッフ一同望んでいます。ぜひ積極的な参加をお待ちしております。

## 平成29年度前期分授業料の免除および徴収猶予について

経済的理由により授業料納付が困難で、学力優秀と認められる本科4・5年生および専攻科生の、平成29年度前期授業料免除および徴収猶予申請を受け付けています。申請方法は下記のとおりです。申請を希望する場合は学生課学生係へ書類を取りに来てください。

なお、本科1～3年生は原則として、「就学支援金」制度により助成が行われます。

記

- 申請方法** 授業料免除申請書または授業料徴収猶予申請書（所定様式）を学生係へ提出する。
- 提出期限** 平成29年3月31日(金)  
※所定の様式がありますので、申請を希望する場合は、学生係へ書類を取りに来てください。
- 申請者には、後日学生係より、住民票、所得証明書等の必要書類提出について案内いたします。  
※必要書類は、必ず学生係からの案内を確認の上、ご準備願います。
- 注意事項**
- 平成28年10月1日以降に、懲戒処分（停学以上の処分）を受けた学生は免除の対象となりません。
  - ご不明な点がございましたら、学生課学生係（055-926-5734）にお問い合わせください。

## 沼津工業高等専門学校意見箱について

本校では、より良い環境の下で、良質な教育を提供することに努めており、それには、保護者及び学生の皆様から寄せられる「声」は非常に重要なものです。そこで、本校の学校運営に関する課題・問題点を早期に把握し、その改善に資することを目的として『沼津工業高等専門学校意見箱』を設置しております。皆様からの学校運営に関する率直なご意見、ご要望、ご指摘等ございましたら、下記メールアドレス宛にお寄せください。

メールアドレス：ikenbako@numazu-ct.ac.jp

### ※注意事項

- ご意見等に対し、回答を要する場合は、学生所属クラス・保護者氏名または学生氏名を明記してください。匿名メールにつきましては、受付・調査等を行います。原則として回答はいたしません。
- ご意見等をお寄せいただいた方の不利益にならないように取扱います。（ただし、虚偽の通報、他人を誹謗中傷する通報、その他不正を目的とする通報の場合を除きます）
- 意見箱は週1回程度チェックします。
- 受信メールの内容が高専機構に関するもので、高専機構の「公益通報の処理等に関する規則」に規定する通報に該当する場合には、当該規程により取扱います。
- 公開が必要と認められる事案については、その結果を公表する場合があります。

高専だよりについてのご感想、ご提案などを電子メール、郵便などで編集部宛にお寄せください。充実した紙面づくりに参考にさせていただきます。

「高専だより」編集部（事務担当：総務係） [soumu@numazu-ct.ac.jp](mailto:soumu@numazu-ct.ac.jp)

## 行事予定表

## 平成29年

4月 入学式・入寮式  
始業式・対面式・健康診断  
1年生合宿研修  
防災訓練

5月 クラス懇談会  
寮祭  
スポーツ大会・学生総会  
平成30年度専攻科入学試験

6月 前期中間試験  
東海地区高専体育大会

7月 1～4年生保護者懇談会

8月 一日体験入学  
全国高専体育大会  
平成30年度編入学試験

9月 寮生リーダー研修  
2年生ミニ研究発表会  
前期末試験

10月 東海北陸地区ロボコン大会  
4年生工場見学  
中学生のための体験授業  
文化講演会  
2年生特別研修

11月 体育祭・学生総会  
高専祭・体験授業  
東海北陸地区英語スピーチコンテスト  
授業参観・学科説明会  
ロボコン全国大会

12月 後期中間試験  
テクノフォーラム  
4年生工学系数学統一試験  
留学生交流会

## 平成30年

1月 3年生学習到達度試験  
3年生合宿研修  
平成30年度推薦選抜入試

2月 学年末試験  
平成30年度学力選抜入試

3月 5年生卒業研究発表  
寮生リーダー研修  
卒業式・修了式



救命救急講習会



高校野球静岡大会

